

令和 6 年度

研究のまとめ 43

研究テーマ

伸びる！「個別教育計画」
～実践編～



神奈川県立
小田原支援学校

Odawara School for Special Needs Education

目次

| | |
|-------------|---|
| はじめに..... | 1 |
| 本研究の概要..... | 2 |

授業実践指導案及び反省

| | |
|--------------------|----|
| 知的障害教育部門小学部 | 3 |
| 知的障害教育部門中学部 | 10 |
| 知的障害教育部門高等部 | 15 |
| 肢体不自由教育部門小学部 | 24 |
| 肢体不自由教育部門中学部 | 32 |
| 肢体不自由教育部門高等部 | 41 |
| 大井分教室 | 52 |
| 湯河原校舎 | 59 |
| おわりに..... | 65 |

はじめに

本校では「一人ひとりが輝く学びの場～豊かな学びと、地域に根ざした安心できる生活の実現～」をグランドデザインのスローガンに掲げています。小田原校舎、湯河原校舎、大井分教室の三つの学びの場で児童生徒の実態に応じた適切で丁寧な指導支援の継続と、地域と連携した教育活動を展開し、地域に知つてもらひ地域とつながり、卒業後の安心できる生活につながっていくことをめざしています。

ここ数年は、授業改善や専門性の向上を目指した研究に取り組んできました。昨年度は、一人ひとりの長期目標や短期目標をはじめ、確かな学びの実現に向けた土台となる、個別教育計画の充実をめざした研究に取り組み、これまでの各教科の目標及び評価が並ぶ書式から、実態把握シート及び自立活動中心の新書式に改訂しました。

新書式は、一人ひとりの教育的ニーズに対応した適切な指導や必要な支援を通して自立と社会参加に向けた育成を目指すためにキャリア教育の視点などを参考とした大きな観点、例えば「暮らす」「学ぶ」「働く」「楽しむ」等、学部学年に応じて4区分ほど設け、より児童生徒の実態に即した課題・目標設定を行いその変容を評価・記載する形式としました。

その結果として、個々の学びにおいて、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように支援するか」「何が身に付いたか」など、一人ひとりの全体像としての目標や評価がわかりやすくなりましたが、その反面、教科との距離が空くなどの課題が残りました。

今年度は、昨年度の研究成果を踏まえ、「伸びる！個別教育計画 実践編」と題し、「新書式の個別教育計画の運用と活用の充実」(令和6年度の重点的な取組事項(学校全体))として、研究を進めてきました。

具体的には、個別教育計画で設定した個々の目標を授業の年間計画や単元等での設定場面でいかに授業に落とし込むか」という課題意識をもって、チームで検討することとしました。

各チームで、学習指導要領の各教科等に示す内容や目標を一つひとつの授業に落とし込み、教科間や系統性をもって授業実践に取り組めたか、また、個別教育計画と各教科のつながりが確実なものになっているかなどは、今年度の研究で検証には至っていませんが、授業をデザインする教職員が、個別教育計画の一人ひとりの課題を受け止め、年間計画を作成し、日々の授業に生かす意識の醸成を深められたと感じています。

今回のまとめは、こうした課題意識をもって個別教育計画に基づいた授業計画の授業実践指導案の掲載になります。小田原校舎(本校)小学部、中学部、高等部の知的・肢体各実践、大井分教室実践、湯河原校舎実践の計8実践の学習指導案及び授業反省の記録です。

今後は、今年度の成果と課題を整理しつつ個別教育計画の活用がさらに充実するよう取り組んでまいりますので、御高配の程よろしくお願ひ申し上げます。

令和7年3月

小田原支援学校長 廣瀬 忠明

本研究の概要

令和5年度、小田原支援学校では「伸びる!個別教育計画」をテーマとし、指導に直結する個別教育計画の書式を検討し、令和6年度から新書式での実践が始まった。

そこで令和6年度の校内研究では「伸びる!個別教育計画～実践編～」と銘打ち、新書式を用いて設定した「個別教育計画の目標をどのように授業に落とし込むか」を検討することをテーマとして研究を行うこととした。

具体的には「補助シート」というシートを作成し、授業に参加する児童・生徒の個別の目標を一覧化することで「どのような目標を持った児童・生徒が在籍しているのか」を再確認し、授業の中で個別の課題へのアプローチを取りやすいうように工夫を行った。

以上を踏まえ、本報告では個別教育計画に基づいて実践した授業実践の指導案を掲載し、「研究のまとめ」とする。

R6年度校内研究用補助シート(中A・高A)

| 名前 | 名前 | 名前 | 名前 | 名前 |
|-------------|----|----|----|----|
| 暮 ら す | | | | |
| 学 ぶ | | | | |
| 働 く | | | | |
| 楽 し む | | | | |

資料I 補助シート(知的中学部・高等部用)

文責:研究係 渡邊正悟

知的障害教育部門 小学部

知的障害教育部門 小学部

授業者 迫田梓穂

| 小学部A 5・6学年 生活 学習指導案(単元指導計画) | | | |
|-----------------------------|--------------|------|---------------------------------|
| 授業名 | 防災学習 | 教科等 | 生活科 |
| 対象 | 小 A5・6年 10名 | 指導者 | MT 迫田 ST1小野、ST2三川、ST3 渡邊、ST4 中村 |
| 単元名 | 防災学習 | | |
| 研究授業日 | 令和6年10月4日(金) | 指導期間 | 9月～10月 |
| 時間 | 13:30～14:00 | 場所 | 小中 A 多目的室 |
| 研究協議 | | | |
| 時間 | 15:20～15:50 | 場所 | 小 A5・6—I教室 |

単元設定の理由

| | |
|---------|--|
| 児童観・生徒観 | <p>○本学年は2クラスで1組6年男子2名5年男子1名6年女子2名5年女子1名、2組6年男子2名6年女子2名の計10名が在籍している。休憩時間はタブレットで動画を見る、レゴブロックで様々な物を作る、歌絵本を見る等で過ごしている。外遊びも好きで、昼休みは中庭で自転車をこぐ、フリスビーを投げる、追いかけっこをする等をして過ごしている。体を動かすことが好きな児童が多く、体を動かす活動を行う活動は積極的に参加することができる。</p> <p>○本単元の防災学習を通して、自分なりの防災方法を見出してくれると期待できる。防災学習を通して、防災について意識し、楽しんで活動に参加することができる児童達である。</p> |
| 単元観 | <p>○本単元は、特別支援学校小・中学部学習指導要領の生活科2段階の内容(イ)(安全)遊具や器具の使い方、避難訓練等の基本的な安全や防災に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。(ア) 身近な生活の安全に关心をもち、教師の援助を求めながら、安全な生活に取り組もうとすること。(イ) 安全や防災に関わる基礎的な知識や技能を身に付けること。を扱っている。</p> <p>○本単元は、9月から防災について学んでいる。実際に災害時の映像を見たり、防災グッズに触れた後、自分の防災グッズを作成したり、実際に揺れる中シェイクアウトを行ったり、防災について様々な体験を通じ、学習できる単元である。</p> |
| 指導観 | <p>○本学級は映像に興味関心のある児童が多いので、映像を使ってイメージをふくらませ、興味関心を高め、防災への意識づけをはかりたい。また、シェイクアウトについて毎回授業の冒頭に繰り返し映像を見て確認し実践することによって、シェイクアウトの重要性を意識してもらいたいと考える。</p> <p>○体を動かす活動が好きな児童が多いので授業に動きをいれている。児童により教員の支援が必要である児童と必要がない児童がいる。教材の工夫や教員がどの程度支援をするかを調整し、児童全員にその児童なりの達成感を味わうことを重視したい。</p> |

単元の目標（三つの柱が実現できるように）

| 三つの柱 | 単元の目標 |
|--------------|--|
| 知識及び技能 | ・防災について理解する。「シェイクアウト」「防災グッズ」「避難」について自分なりの行動をすることができる。 |
| 思考力・判断力・表現力等 | ・映像を見ての学習や実践を通して、災害・シェイクアウト・避難について学び、防災についてイメージすることができる。 |
| 学びに向かう力・人間性等 | ・映像や実践を通して、防災について意識しながら活動に積極的に活動に参加することができる。 |

単元の指導計画（第3時／全4時間）

| 次／時間目 | 学習内容 | 学習活動 | 育成を目指す資質・能力 (その時間の目標) | 備考 |
|--------------|------------------------|--|---|----|
| 1時間目 | 災害について | ○災害について映像やクイズを通して学ぶ。 ・シェイクアウトについて確認する。 ・火災・地震・水害などを実際の映像や簡単なクイズを通して学ぶ。 | ・災害について知る。 ・災害についての映像やクイズに興味をもち、学習に生かすことができる。 | |
| 2時間目 | 防災グッズについて | ○防災グッズはどのようなものか知る。 ・防災グッズにはどのような物があるか知り、実際に防災グッズ（防災枕）を作る。 | ・防災グッズに興味を持つことができる。 ・防災グッズ作りに積極的に取り組むことができる。 | |
| 3時間目 (本時) | シェイクアウトの実践 | ○教材を通して、シェイクアウトを学ぶ。 ・実際に揺れる中でシェイクアウトを行う。 | ・積極的に活動に取り組むことができる。 ・活動の中で自分なりのシェイクアウトを行うことができる。 | |
| 4時間目 | 前回の授業の続きと避難訓練を通しての防災学習 | ○避難訓練を通して、今までの学習をふりかえる。 ・避難訓練を通して、シェイクアウト・避難場所への避難を実践する。 | ・避難訓練に積極的に取り組むことができる。 ・教員の指示に従い、避難訓練を行うことができる。 | |

本時の目標（集団）

- ・シェイクアウトの実践を通して、自分なりのシェイクアウトを行うことができる。（思考力・判断力・表現力）
- ・シェイクアウトの実践に進んで取り組むことができる。（主体的に学習に取り組む態度）
- ・避難について意識し、シェイクアウトを実践することができる。（知識・技能）

個別の実態・本時の個別目標・指導の手立て・評価規準

| 児童生徒 | 実態 | 個別の目標 | 指導の手立て | 評価規準(評価の観点) | 達成状況 |
|------|---|--|--|--|------|
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・どんな活動にも積極的に参加することができる。 ・体を動かす活動を好んで行う。 ・最初に活動に参加する前や発言する前は自信のなさから、積極的に参加することが難しいことがある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容を理解し、興味をもって活動に取り組むことができる。 ・自信をもって活動に参加することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本児の活動前に活動内容をもう一度話す。 ・本児が活動を行っている際、自信をもってもらうために正しく活動できいたら細かく賞賛していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウトの実践に積極的に参加することができた。 (学びに向かう姿勢) ・シェイクアウトや避難について正しく理解し、活動に参加することができた。 (知識及び技能) ・災害や防災について学び、自分なりの防災方法を見出すことができた。 (思考・判断・表現力) | |
| F | <ul style="list-style-type: none"> ・どんな活動にも積極的に参加することができる。 ・体を動かす活動を好んで行う。 ・指示を正しく理解し行動することができる。 ・長く話を聞くことが苦手で、話を聞いていないことから、活動に積極的に参加できない場面がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容を理解し、興味をもって活動に取り組むことができる。 ・教員の話に興味を持ち、活動内容を正しく理解することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で本児に細かく質問を投げかけ、教員の話に興味をもってもらう。 ・活動する前に本児に活動内容について確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウトの実践に積極的に参加することができた。 (学びに向かう姿勢) ・シェイクアウトや避難について正しく理解し、活動に参加することができた。 (知識及び技能) ・災害や防災について学び、自分なりの防災方法を見出すことができた。 (思考・判断・表現力) | |
| H | <ul style="list-style-type: none"> ・どんな活動にも積極的に参加することができ、活動を盛り上げてくれる。 ・体を動かす活動を好んで行う。 ・順番やルールを正しく理解し、守ることが難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容に見通しを持ち、スムーズに活動に取り組むことができる。 ・他の児童が活動を行っている際、興味をもって活動を見ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動を行う際は2番目以降に行い、活動内容に見通しをもてるようにする。 ・教員が常に傍につき、活動を一緒に盛り上げ楽しく参加できるように支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウトの実践に積極的に参加することができた。 (学びに向かう姿勢) ・シェイクアウトや避難について興味をもち、活動に参加することができた。 (知識及び技能) ・災害や防災について学び、興味をもつことができた。 (思考・判断・表現力) | |

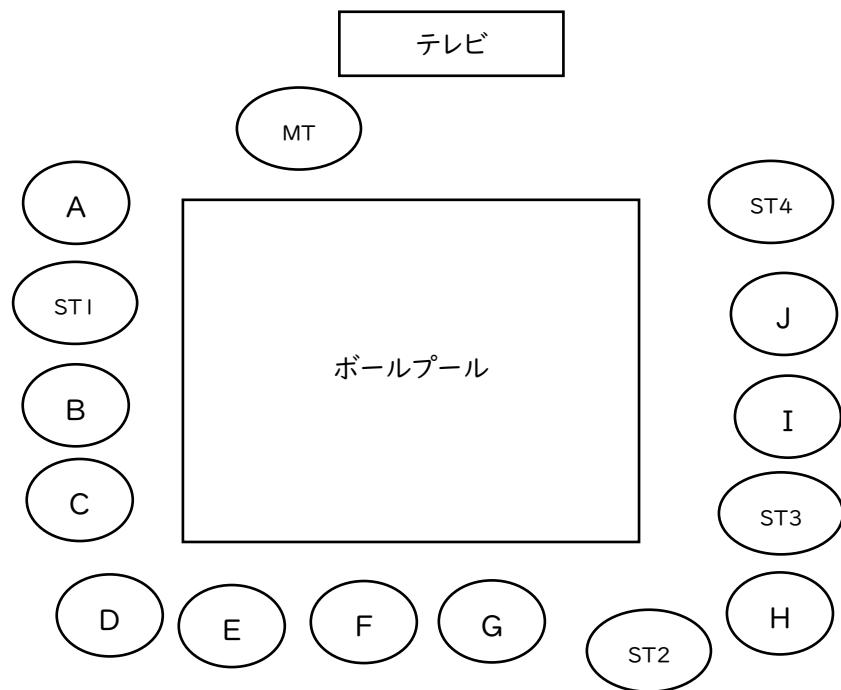
本時の展開

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点および配慮事項 | 備考 |
|-----|---|--|----|
| 導入 | ○はじめの挨拶 ○学習内容の確認 | <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機器を使って興味関心を高めたり、意識づけをしたりする。 ・教員が手本を見せて活動内容について学ぶ。 | |
| 展開 | ○前回までの振り返り ○シェイクアウトの実践 ① ボールプールを用いて、実際に揺れている中でシェイクアウトを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの防災学習について簡単に復習する。 ・児童が自分で活動に参加できているところは称賛しながら、支援が必要な所は言葉をかけたり、一緒に取り組んだりする。 ・児童によって支援方法などを変える。 ・活動は1人ずつ行う。 ・教員が2人ボールプールの横につき、ボールプールの上の児童が乗っている段ボールを揺らす。 ・安全に十分に配慮し、危険な場合は直ちに中止する。 ・支援が必要な場合は教員と一緒に活動を行う。 ② シェイクアウト後の避難訓練の確認 | |
| まとめ | ○振り返り ○終わりの挨拶 | <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ児童が頑張っていた所を言葉にして伝えたり、拍手をしたりする。 | |

本時の評価（評価規準）

- ・シェイクアウトの実践を通して、自分なりのシェイクアウトを行うことができた。（思考力・判断力・表現力）
- ・シェイクアウトの実践に進んで取り組むことができた。（主体的に学習に取り組む態度）
- ・シェイクアウトの必要性を理解し、実践することができた。（知識・技能）

配置図



教材・教具

- ・机
- ・ボールプール
- ・段ボール
- ・テレビ

研究授業反省

○研究授業で工夫した点

- ・児童の実態的に体を動かす活動を中心に取り入れた。
- ・ICTに興味がある児童達であったため、授業の流れはICT中心に行った。
- ・授業の活動には楽しく参加してもらいたいが、防災学習であるため、楽しいだけで終わらせらず、学んでほしい所は何度も授業の中で確認し、学ぶべきところは学んでもらう工夫をした。

○研究授業の振り返り(学んだこと、これからいかしていくことなど)

- ・児童は笑顔で取り組んでおり、誰が行うかを決める際も自発的に手をあげる児童が多くかった。
- ・今回の授業では安全面に注意する必要がある。授業の前にSTの教員とより綿密に授業についての話し合いが必要である。
- ・ICTはこれから授業でも取り入れ、いかしていくたい。
- ・授業の最後に授業の振り返りができる活動(クイズなど)をいれたいと思った。

知的障害教育部門 中学部

知的障害教育部門 中学部

| 中学部 A 1~3学年 国数 学習指導案(単元指導計画) | | | |
|------------------------------|---------------|------|--------------------|
| 授業名 | 国数 | 教科等 | 国語、数学 |
| 対象 | 知的教育部門、中学部 | 指導者 | MT 坂本 ST 宇都宮、梶山、友永 |
| 単元名 | 『おはなししど～れ?』 | | |
| 研究授業日 | 毎週、月金 | 指導期間 | R6, 4月 ~ R7, 3月 |
| 時間 | 13:05 ~ 13:55 | 場所 | 1F 集会室 |

単元設定の理由

| | |
|---------|--|
| 児童観・生徒観 | 本クラスは生徒9名（男7、女2）で構成されている。多動傾向のある生徒も複数名おり、総じて長時間の活動に取り組むことが難しい。授業を通して、国数の技能向上だけでなく、人・物を大切にすることの大切さなど、社会性の向上を図りたい。 |
| 単元観 | ○授業テーマ『インラクティブ（参加・体験型）国数 ~ リトミックと国数の融合 ~』 ○本単元は通年で行い、生徒が見通しを持ちやすいよう配慮されている。 ○生徒の変化・成長を踏まえ、適宜、新たな活動を付け加える。 |
| 指導観 | ○童謡『おつかいあり』『おもちゃのチャチャチャ』『むすんでひらいて』といった親しみやすい題材を中心に授業を展開する。 ○MTはファシリテーターの役割を担い、活動中、生徒が集中を切らさないよう、褒める等の関りを積極的に行う。 |

単元の目標（三つの柱が実現できるように）

| 三つの柱 | 単元の目標 |
|--------------|-----------------------------|
| 知識及び技能 | ・課題（発問）に対して、協応動作で応えることができる。 |
| 思考力・判断力・表現力等 | ・おはなしの内容に応じた役柄・役割を担うことができる。 |
| 学びに向かう力・人間性等 | ・授業に参加しようとする態度を育てる。 |

単元の指導計画（通年）

| 次／時間目 | 学習内容 | 学習活動 | 育成を目指す資質・能力 (その時間の目標) | 備考 |
|-------|-------------|---|---|----|
| 通年 | 『おはなししど～れ?』 | 1. あいさつ 2. たいこたたこう 3. てれび 4. えんそう 5. おはなししど～れ? 6. すうじのうた 7. おわりのうた 8. あいさつ | ・授業の始まりを意識することができる。 ・回数、叩き方等、指示通りに叩くことができる。 ・ダンスを真似て体を動かすことができる。 ・伴奏に合わせて、演奏することができる。 ・聞きたいお話を投票することができる。 ・1~100、数字について学ぶ。 ・教員の手の動きを真似ることができる。 ・授業の終わりを意識することができる。 | |

本時の目標(集団)

- ・取り組むための見通しを持つことができる。(主体的に学習に取り組む態度)
- ・落ち着いて(座って)取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度)
- ・課題(発問)に対して、協応動作で応えることができる。(思考・判断・表現)
- ・選択などの意思表示を主体的に行うことができる。(知識・技能)

個別の実態・本時の個別目標・指導の手立て・評価規準

(達成状況、評価基準／A 十分満足できる、B おおむね満足できる、C 努力を要する)

| 生徒 | 実態 | 個別の目標 | 指導の手立て | 評価規準 (評価の観点) | 達成 状況 |
|----|---------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|-----------------------|----------|
| A | 見通しを持つことができると主体的に取り組もうとする様子が見られる。 | 興味の幅を広げることができること。 | 複数の活動を用意する。 | 取り組もうとする場面が増えたか。 | B |
| B | 穏やかな言葉で伝える等の支援が有効である。 | 正しい方法でコミュニケーションをとれる場面を増やすことができる。 | 簡単な手サインなどを指導し、授業中に表出する機会を設ける。 | 自分の意思を伝えることができたか。 | A |
| C | 色やイラストなどのマッチングができる。 | 自分の気持ちを相手に伝えることができる場面を増やす。 | 投票の場面を設けて、意志の表出を図る。 | 自分の気持ちを相手に伝えることができたか。 | B |
| D | 手先が器用で、作業的な活動が得意である。 | 見通しを持って授業に参加することができる。 | 授業進行が分かる手順書を用意する。進むごとに消す。 | 授業に参加することができたか。 | C |
| E | 本に興味関心があり、絵や写真に注目したり選んで指さしたりすることができる。 | 授業と休み時間の切り替えがスムーズにできる。 | 授業中、活動が展開するごとに視覚支援を行う。 | 気持ちの切り替えができたか。 | B |

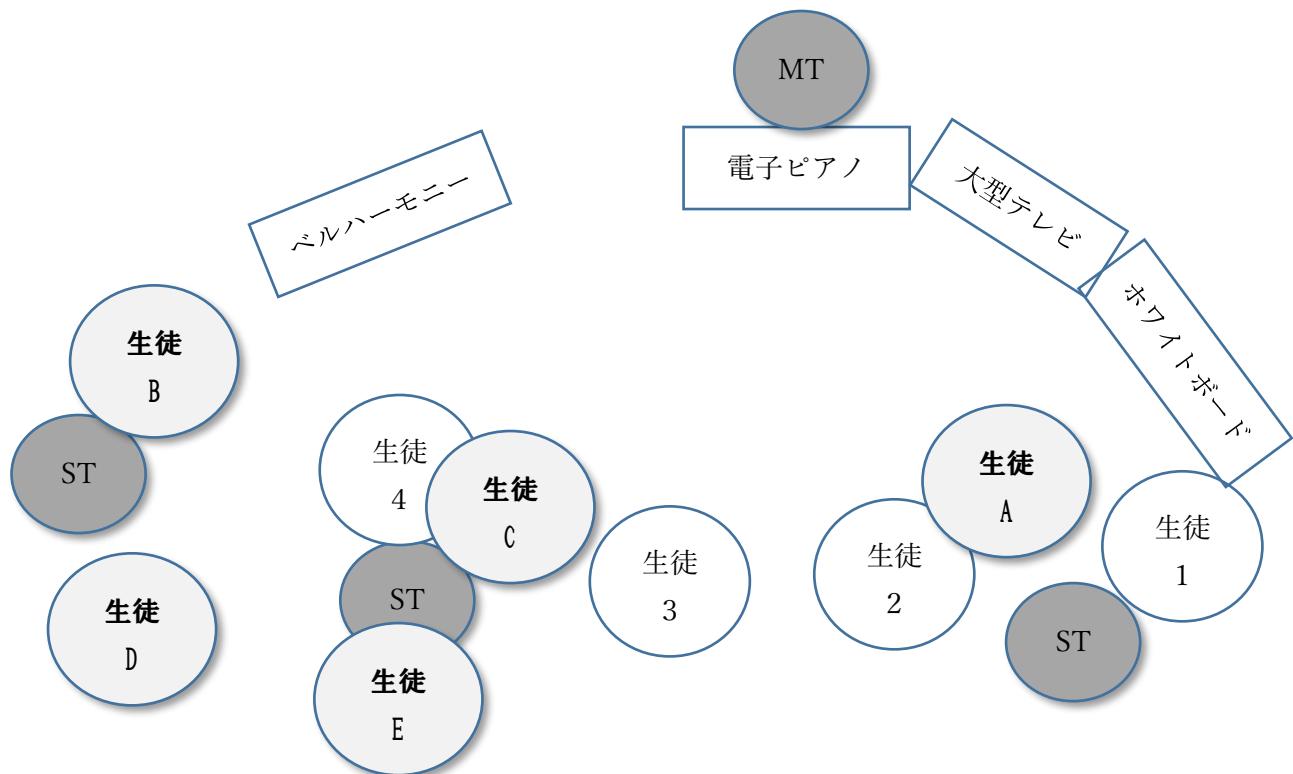
本時の展開

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点および配慮事項 | 備考 |
|-----------------|-----------------------------------|--|----|
| 13:05 ～13:10 | 1. あいさつ 2. たいこたたこう | ・生徒と目が合うようにする。 ・楽器が破損しないよう、力加減について、支援・指導する。 | |
| 13:10 ～13:40 | 3. てれび 4. えんそう 5. おはなししど～れ? | ・体を動かせていたら、褒める。 ・演奏はもとより、前後の礼を大切に指導する。 ・投票数の高い『おはなし』から読んでいく。 | |
| 13:40 ～13:55 | 6. すうじのうた 7. おわりのうた 8. あいさつ | ・1～100、数字について学ぶ。 ・教員の手の動きを真似ることができる。 ・授業の終わりを意識することができる。 | |

本時の評価(評価規準)

- ・取り組むための見通しを持つことができる。(主体的に学習に取り組む態度)
- ・落ち着いて(座って)取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度)
- ・課題(発問)に対して、協応動作で応えることができる。(思考・判断・表現)
- ・選択などの意思表示を主体的に行うことができる。(知識・技能)

配置図



教材・教具

- ホワイトボード
- 大型テレビ
- iPad (おはなし等データ)
- 電子ピアノ
- ベルハーモニー
- ハーモニカ
- パドルドラム
- ギター
- 生徒用写真カード
- 選択用『おはなしカード』
- 懐中電灯
- ワイヤレスマイク&スピーカー

中学部 A 1~3学年 国数 授業について

ST 宇都宮 裕幸

<授業の概要と生徒の反応>

指導観にあるように、授業は童話などを扱ったストーリーで展開される。

生徒と教員の双方向のやり取りを主眼としているため、ストーリーはすべて授業者がAIを駆使して制作したオリジナル画像であり、大型TVに映し出して生徒の興味関心を大いに引き出す題材となった。

登場するキャラクターが楽器を鳴らしたり、動作の合図を出したりするのに合わせて生徒が協応する。ストーリーの中に入りこむような体験を通して、役柄や役割を担うことで授業に参加するといった内容で構築された。

生徒の主体性を尊重し、授業で扱うストーリーは生徒全員の多数決で毎回決めている。登場するキャラクターになりきる役目も立候補を募っている。この時にSTが挙手を促すことで、まんべんなく役割を演じることができるように支援している。

授業を重ねるごとに生徒の挙手も盛んになり、積極的なものになった。

授業の開始時のストーリーは3つだったが、生徒の興味や関心をひく内容やキャラクターであったり、既存のキャラクターのアナザーストーリーであったり、追加すること現在では8ストーリーに増えた。

MTの働きかけに生徒全員が応じるようになってきている。

<各生徒の目標達成状況について>

A ストーリーが増えたことで、選択肢から選べるようになってきた。

B 座席などの環境設定を考慮した。MTからの発問に対して、顔写真カードを提示したり、挙手をしたりして意思表示ができるようになった。

C 自分の写真カードを選びたい所に掲示することができるようになってきた。

D 授業内容を視覚化することで、参加する態度も落ち着いてきた。

E 始まりや授業内容の移り変わり、終わりを視覚支援することで、気持ちの切り替えができるようになってきた。

<授業場所に参加ができない生徒1名についての対応>

・自分の教室で個別に授業を行う指導案の作成

・全体授業でのストーリーに興味関心を持つような内容を取り入れた。

現在、試行錯誤している。

知的障害教育部門 高等部

知的障害教育部門 高等部

| 高等部AI学年 職業 学習指導案(単元指導計画) | | | |
|--------------------------|----------------|------|-----------------------|
| 授業名 | 職業 | 教科等 | 職業 |
| 対象 | 高AI年IIグループ | 指導者 | MT 平本みどり・ST 山本英樹、鈴木琢朗 |
| 単元名 | 自分をしろう | | |
| 研究授業日 | 令和6年 10月 9日(水) | 指導期間 | 9月～10月・(2～3月) |
| 時間 | 10:55～11:40 | 場所 | 高AI-I 教室 |
| 研究協議 | | | |
| 時間 | 15:25～15:55 | 場所 | 高AI-4 教室 |

単元設定の理由

| | |
|-----|---|
| 生徒観 | 【本グループの構成・特徴】 本グループは、男子8名、女子2名のグループである。知的障害があるが、自分の意思を言葉で伝えられ、教師の話や発問に関心を持って聞いていたり、活動に積極的に参加したりすることができる生徒たちである。特性上言葉とイメージがつながりにくいことがあるが、パワーポイントで視覚的手がかりを提示することで、理解できることが多い。こうすることで見通しを持って授業に取り組み、教師の話を聞いたり、質問に積極的に答えたりすることができる。 これまでの授業では、高等部の授業として「職業」の授業があることを知り、「校内実習についての事前学習・事後学習」「卒業後の生活（進路）について」をおこなってきた。最初は「職業」でどのような授業をするのか、興味を持ったり不安が強かったりする生徒もいたが、卒業後の進路のための授業ということがわかりつつあり、真剣に取り組む姿が見られる。 |
| | 【本グループの課題】 また、本グループの生徒の一つの特長として、教員とのコミュニケーションは好むが、友だち同士のかかわりをうまく持てない生徒が多いことが挙げられる。本単元では、友だちの考えに共感したりアドバイスをしたりする活動を設定することで、まわりの人の考えを知り、受け止め、人と関わる力につなげたいと考えている。また、このようにして身につけた力を学校生活や日常生活で良好な人間関係を築き、校外での実習や卒業後の生活にも役立ててほしいと考えている。 |
| 単元観 | 本単元「自分をしろう」は、自分の苦手なことと得意なことを整理し、自己理解を図る単元である。本単元では自己理解を深める活動を素材としつつ、整理したことを発表したり、友だちの発表を聞いたりすることを大切にして授業を行なっていきたいと考えている。 発表をすることを意識することは聞き手にとって分かりやすいかを意識することであり、発表の聞き方を意識することは発表者にとって発表のしやすさや、あるいは発表したことの充足感について意識することを意味すると考える。本単元では、このように他者を意識した話し方を学習することを大きな目標とする。 |
| | 【学習指導要領上の位置づけ】 本単元の目標及び内容は特別支援学校学習指導要領高等部[職業]の「職業に関わる見方・考え方を働きかせ、職業など卒業後の進路に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい |

| | |
|-----|---|
| | <p>生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す」ことを目標とし、内容としては「将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現する」に加えて、[自立活動]にある【人間関係の形成】の内容としては、「他者との関わりの基礎に関すること」「自己の理解と行動の調整に関すること」に該当する単元である。</p> <p>【進路専任との連携】</p> <p>「職業」の授業は進路選択に係る重要な授業であると考え、進路専任との連携をしながら授業を行っている。年間指導計画の立案にあたって進路専任と相談し、個別教育計画の項目などを参考にしながら高等部1年生の職業・進路学習の(単元)としては、大きく分けて「自分を知る」「働く」「楽しむ」「暮らす」の大項目を立てて進めている。</p> <p>【本単元の内容】</p> <p>本単元は以上の大項目の「自分を知る」に該当する授業である。以下の3点の活動を行うことで、「自分を知る」と同時に他者と意識した関わり方を知ことができるようにしている。</p> <p>1 点目に自分の苦手なことと得意なことを整理し、学校生活や日常生活で意識することで、得意なことを伸ばし苦手なことを改善する力を育みたいと考えている。得意なことを掘り下げて考えるために、得意なこと、好きな教科、自分のよいところを書き出し、整理した。同様に苦手なことについては、苦手なこと、苦手な教科、自分のよくないところを書き出し、苦手について整理した。このようにして、書き出したことを見つめ直し、自分の得意や苦手を意識できるようにした。</p> <p>2点目に自分の得意なことや苦手なことを小集団で話合うことを設定した。まず自分の考えを友だちに伝える、そして自分の考えを伝える時には相手の考えを受け止めてから伝えることで相手に共感する体験ができるようにした。このような体験を通して良好な人間関係の構築ができるようにつなげていきたい。</p> <p>3点目に、苦手の改善がどのようにされたか、得意がどのように伸ばせたかを実感できるようしたい。これについては、成果物を見せたり、改善や伸ばしている様子を動画に撮影したりして振り返りの場を設定し、意識できるようにする。</p> |
| 指導観 | <p>○指導の工夫について</p> <p>まず、第1に、授業内容を視覚的にわかりやすくするため、パワーポイントや手本の動画、イラスト等を提示して説明をしている。このことにより、話している内容をイメージしながら聞くことができる。</p> <p>第2にグループワークで友だちと話し合う時には、①教員が手本を見せ、話す流れを理解できるようにしている。②得意なこと・苦手なことを友だちにわかりやすく伝えるために、カードに記入しそれを見せながら話せるように視覚支援をしている。③友だちへアドバイスは、友だちの考えに共感してから、自分の意見を言う流れにしている。発言者は、相手に共感しそれから自分のアドバイスをということで、相手を認める体験ができ、聞き手は、友だちに認められた体験ができる。</p> <p>第3に学習したことをワークシートに書き込み、振り返りができるようにしている。これらにより、自分の学習したことをいつでも振り返り、現在の課題に取り組みやすいようにしている。ワークシートを活用していくことで、子どもたちの主体的に取り組む姿勢につなげていくようにしていく。</p> <p>○必要な支援と配慮</p> |

| | |
|--|--|
| | <p>本グループには、様々な特性のある生徒が在籍している。まず、音声と文字がつながりにくい生徒がいるため、五十音表を活用し書字を支援している。そして、自分の考えを、文にすることが難しい生徒には教員が考えを聞き取り一緒に文にまとめる支援を行っている。また、話し合い活動では、できるだけ生徒同士で話合うが、難しい場合は教員が助言をすることでスムーズな活動へとつなげている。一方で、集団活動が苦手な生徒に対しては、あらかじめ活動内容を伝え、教員と共に参加しやすい仕方を考え、本人が参加の仕方を選択できるようにしている。最後に全ての生徒に対して、生徒が困り感を発信しやすいように、机間巡回をしていくことで活動に参加しやすいように配慮している。</p> <p>○教員の役割と連携について</p> <p>MTは、全体を把握しながら進行する。活動の際には、生徒の様子をみながら支援をする。STは特に配慮の必要な生徒の様子をみながら支援をする。また、日頃からMTとSTは、生徒の実態について話し合い、適切な支援ができるようにしたり、生徒が見通しを持ち活動できるようにしたりしている。更に、グループワークをするときには、それぞれのグループに教員を配置し(本時はMTもグループに入りMT、STがそれぞれメインになる形をとる)、生徒が書いた文章を簡潔にまとめたり、生徒が発したことばを聞き取り、それを尊重しながら聞き取った言葉を適切な言葉で表したりして支援している。</p> <p>○本グループの他の授業や教員との連携</p> <p>本グループの授業内容は、このグループの授業を受け持つ教員と授業内容や授業のルールを共有しながら連携して行っている。他の授業で身につけた力を「職業」の授業でも活用できるようにしている。例えば、国語で聞き取りテストを実施しているが、ねらいは「教員の話を聞き理解して行動できる力を身につける」である。これを職業の授業では、「教員の説明や指示を聞いて行動する場面を設定し、生徒が主体的に行動できる力を育もう。」としている。このようにどの授業でも共通するねらいを設定することで、卒業後の生活に必要な力を身につけられるように考えている。</p> |
|--|--|

単元の目標（三つの柱が実現できるように）

| 三つの柱 | 単元の目標 |
|--------------|---|
| 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の得意なこと、苦手なことがわかる。 ・友達の発表を聞いて共感の言葉をかけることができる。 |
| 思考力・判断力・表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・得意なことの伸ばし方、苦手なことの改善の仕方を表現できる。 ・自分の話す時間と友達の話す時間を判断することができる。 |
| 学びに向かう力・人間性等 | <ul style="list-style-type: none"> ・得意なことの伸ばし方、苦手なことの改善の仕方がわかり改善しようとしている。 ・友達の話を聞き、友だちのためを考えて自分の考えを述べることができる。 |

単元の指導計画(第5時／全7時間)

| 次／時間目 | 学習内容 | 学習活動 | 育成を目指す資質・能力 (その時間の目標) | 備考 |
|-------|------------------------|---|--|----|
| 1 | 自分の得意なこと・苦手なことを考える。 | ・ワークシートに沿って自分の得意なこと、苦手なことを考えて書きだす。 | ・ワークシートに沿って自分の得意なこと苦手なことを整理することで知ることができる。 | |
| 2・3 | 苦手を知って改善しよう。 | ・苦手について整理する。 ・友だちや教員のアドバイスを聞き苦手なことの改善方法を考える。 | ・自分の苦手なことをカードに記入し、自身で考えた改善方法を友だちに伝えることができる。 ・友だちの苦手なことを聞き共感したり自分の考えを伝えたりすることができる。 | |
| 4・5 | 得意なことを知って伸ばそう。 | ・得意について整理する。 ・友だちや教員のアドバイスを聞き得意なことの伸ばし方を考える。 | ・自分の得意なことをカードに記入し、自身で考えた得意の伸ばし方を友だちに伝えることができる。 ・友だちの得意なことを聞き共感したり自分の考えを伝えたりすることができる。 | |
| 6・7 | まとめ改善・伸ばす、のモニタリングをしよう。 | ・自分の苦手の克服や得意を伸ばすことについて発表する。 ・成果物を見せたり、改善や伸ばしている様子を動画撮影したものを見たりして振り返り、共有する。 | ・自分の苦手の克服や得意を伸ばすことについて発表することができる。 ・友だちの発表を聞いて認めあうことができる。 ・自分の苦手を改善し得意を伸ばそうと行動できたか。 | |

本時の目標(集団)

- ・自分の得意なことや自分のよいところを友だちに伝えることができる。(思・判・表)
- ・友だちの得意なことや、よいところを聞き、共感しアドバイスすることができる。(思・判・表)
- ・友だちや教員のアドバイスを聞き得意なことや自分のよいところの伸ばし方を考えることができる。(学・人)

個別の実態・本時の個別目標・指導の手立て・評価規準

| 児童生徒 | 実態 | 個別の目標 | 指導の手立て | 評価規準(評価の観点) | 達成状況 |
|------|-------------------------------------|--|------------------------------------|---|------|
| B | ・自分で適切な大きさの文字を書くことができる。 ・慣れて安心でき | ・自分の得意なところやよいところを伸ばすためにどうするかを、友だちに伝えることができる。 | ・必要に応じて言葉かけをし、発表の仕方やアドバイスの仕方を支援する。 | ・自分の得意なところやよいところを伸ばすためにどうするかを、友だちに伝えることができたか。 | |

| | | | | | |
|---|---|--|---|---|--|
| | <p>る場では、わかつたことや理解したことなどを積極的に挙手し、発言することができる。</p> | <p>【話し手】 ・友だちの得意なことやよいところの伸ばし方について聞き、共感したりアドバイスをしたりすることができる。 【聞き手】 ・友だちや教員のアドバイスを聞き、得意なことや自分のよいところをどう伸ばしていくかを考えることができる。</p> | <p>・必要に応じて考えをまとめ支援をする。</p> | <p>【話し手】 ・友だちの得意なことやよいところの伸ばし方について聞き、共感したりアドバイスをしたりすることができたか。 【聞き手】 ・友だちや教員のアドバイスを聞き、得意なことや自分のよいところをどう伸ばしていくかを考えことができたか。</p> | |
| C | <p>・意見を求められる一言目に「わからない」ということが多い。 ・教員と話すこと好み、生徒同士のコミュニケーションが難しい。</p> | <p>・自分の得意なところやよいところを伸ばすためにどうするかを、友だちに伝えることができる。 【話し手】 ・友だちの得意なことやよいところの伸ばし方について聞き、共感したりアドバイスをしたりすることができる。 【聞き手】 ・友だちや教員のアドバイスを聞き、得意なことや自分のよいところをどう伸ばしていくかを考えることができる。</p> | <p>・必要に応じて言葉かけをし、発表の仕方やアドバイスの仕方を支援する。 ・必要に応じて考えをまとめ支援をする。</p> | <p>・自分の得意なところやよいところを伸ばすためにどうするかを、友だちに伝えることができたか。 【話し手】 ・友だちの得意なことやよいところの伸ばし方について聞き、共感したりアドバイスをしたりすることができたか。 【聞き手】 ・友だちや教員のアドバイスを聞き、得意なことや自分のよいところをどう伸ばしていくかを考えることができたか。</p> | |
| F | <p>・教員の支援を受けて文を書くことができる。 ・教員の支援を受けて、友達に「混ぜて」と言い一緒に活動することができる。</p> | <p>・教員の支援を受けて、得意なことや伸ばし方を友だちに伝えることができる。 ・教員の支援を受けて、友だちの得意なことや伸ばし方について聞き、共感したりアドバイスをしたりすることができる。 ・教員の支援を受けて、友だちや教員のアドバイスを聞き、得意なことや自分のよいところをどう伸ばしていくかを考えることができる。</p> | <p>・個別に言葉かけをして、発表の仕方やアドバイスの仕方を支援する。 ・個別に言葉かけをして、考えをまとめる支援をする。</p> | <p>・教員の支援を受けながら、得意なことや伸ばし方を友だちに伝えることができたか。 ・教員の支援を受けながら、友だちの得意なことや伸ばし方について聞き、共感したりアドバイスをしたりすることができたか。 ・教員の支援を受けながら、友だちや教員のアドバイスを聞き、得意なことや自分のよいところをどう伸ばしていくかを考えることができたか。</p> | |
| J | <p>・気持ちが安定している時には、担任に自分の気持ちや趣味のことなどを話せる。 ・集団活動や他者</p> | <p>・活動に参加できるか、選択し教員に伝えることができる。 ・小集団の活動に自分なりに参加できる。</p> | <p>・予め活動内容を伝える。 ・参加の仕方を提案する。</p> | <p>・活動に参加できるか、教員に伝えることができたか。 ・小集団の活動に自分なりに参加できたか。</p> | |

| | | | | |
|--|--------------------------|--|--|--|
| | と協力しながら作業に取り組むことに抵抗感がある。 | | | |
|--|--------------------------|--|--|--|

本時の展開

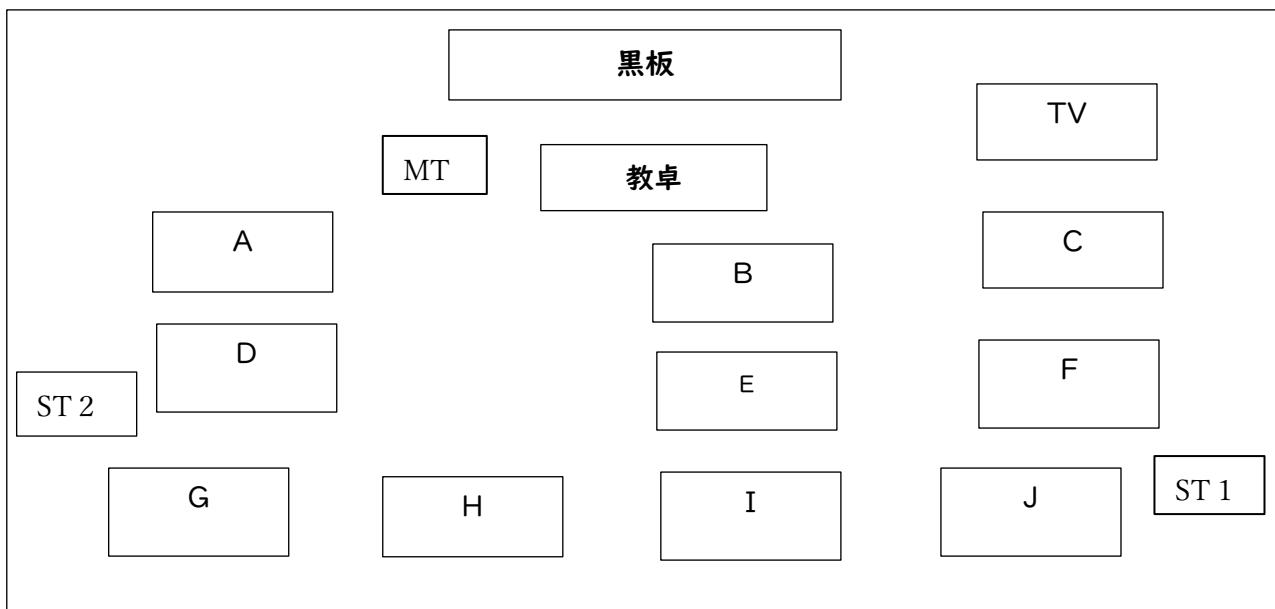
| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点および配慮事項 | 備考 |
|-----------------|---|---|--|
| (1時間目) 10:55 | あいさつ 出席確認 | <ul style="list-style-type: none"> ・日直の声に耳を傾けるようにする。 ・MTに注目できるようにする。 ・机の上は筆箱だけにするよう促す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ルールカード ・出席表 ・TV ・iPad ・iPad アダプター |
| 10:58 | <ul style="list-style-type: none"> ●本時の学習内容を知る。 ・前回の振りかえり ・グループ活動 ・まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の得意やよいところを伸ばすためにどうしていくか友だちに伝える。 ・友だちの発表を聞き得意なところやよいところに共感し、それを伸ばすためにアドバイスをする。 ・自分の考えと友だちのアドバイスをまとめ、どのように伸ばしていくかを考える。 <p>以上を簡潔に説明する。</p> | |
| 11:00 | <ul style="list-style-type: none"> ●グループに分かれる。 ●発表やアドバイスの手本を見る。(動画を見る) | <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれる※グループ分け配置図参照 ・プリント・カード配布 ・机の上はプリント、鉛筆、消しゴムだけにするよう促す。 ・グループは名札を見て移動できるように掲示する。 教員が手本を見せる。 <p>ST2 ①得意なこと、よいところの発表 ②どうしているかを述べる。 ③これからどうしていきたいかを述べる。</p> <p>ST1 ①○○さん、の△△などろ、いいですね。(共感) ②これからは、●●するといいですね。(アドバイス)</p> <p>MT ①○○さんの△△などろ、いいですね。(共感) ②これからは、●●するといいですね。(アドバイス)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート(自分をしろう3) ・カード ・ホワイトボード各3 |
| 11:10 | <ul style="list-style-type: none"> ●グループ活動 発表者 ・カードとワークシートを見ながら発表する。 聞き手 ・相手に共感してからアドバイスを言う。アドバイスがない場合は共感するようする。 | <p>グループ活動の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の流れは、教員の手本の様にできるようにする。 ・生徒が、答えに困る様な場合は、なるべく少ない支援の言葉かけをする。 ・友だちのアドバイスが出たら、記入できるように支援する。 | |
| 11:25 | <ul style="list-style-type: none"> ●まとめ 友だちのアドバイスを聞いて、これからどう伸ばしていくかを考え記入 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート4の「どうのばしていく」を記入の時の留意点 ・記入する際は、必要に応じて支援する。 ・生徒の自発的な取り組みを具体的に褒める。 | |
| 11:35 | <ul style="list-style-type: none"> ●発表の練習 次回の発表に向けて、練習 | <ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさ、話すスピードなどをアドバイスする。 | |

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 11:38 | する。 ●ワークシート・カード回収 ●あいさつ | ・回収の仕方を伝える。 ・日直の声に耳を傾け、MTに注目できるようにする。 | |
|-------|-------------------------------|--|--|

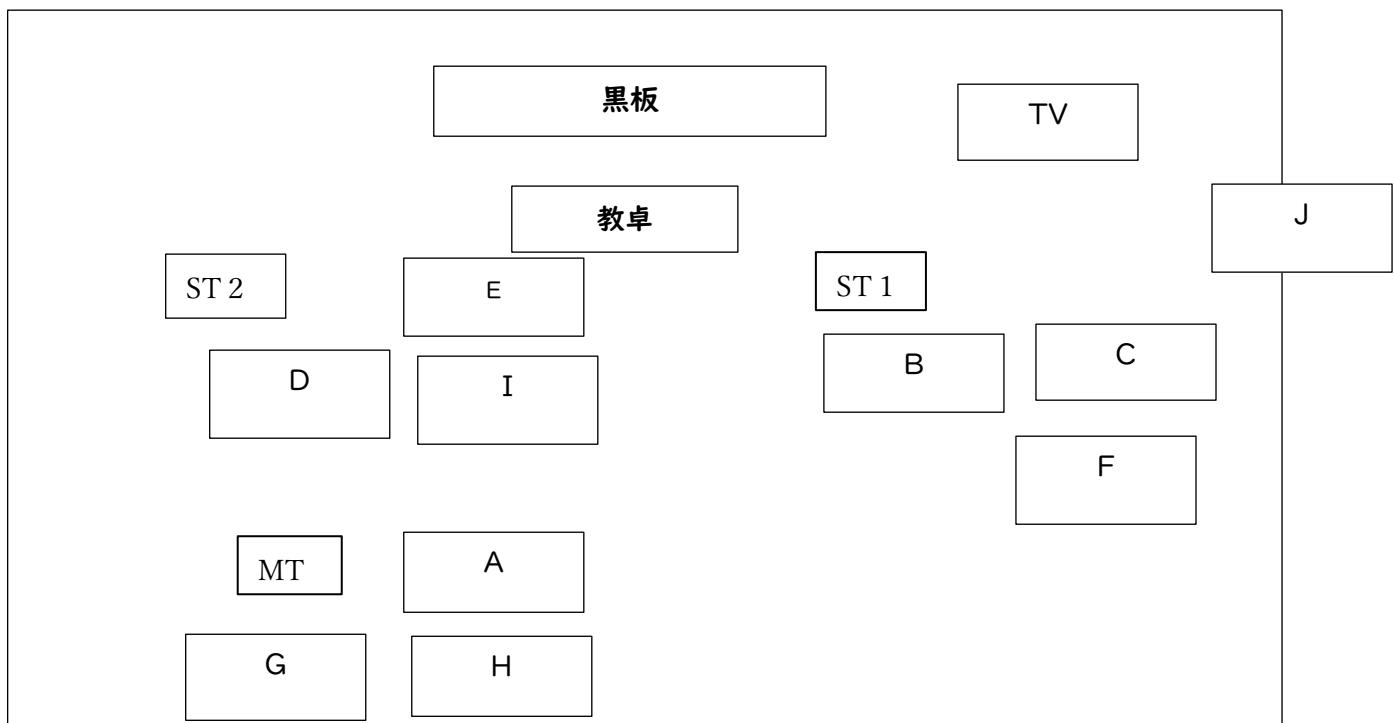
本時の評価

- ・自分の得意なことや自分のよいところを友だちに伝えている。(思・判・表)
- ・友だちの得意なところやよいところを聞き、共感してアドバイスをしている。(思・判・表)
- ・友だちや教員のアドバイスを聞き得意なことや自分のよいところの伸ばし方を考えている。(学・人)

配置図



グループワーク



授業の工夫点

第1に、授業内容を視覚的にわかりやすくするため、パワーポイントや手本の動画、イラスト等を提示して説明をしている。このことにより、話している内容をイメージしながら聞くことができる。

第2にグループワークで友だちと話し合う時には、①教員が手本を見せ、話す流れを理解できるようにしている。②得意なこと・苦手なことを友だちにわかりやすく伝えるために、カードに記入しそれを見せながら話せるように視覚支援をしている。③友だちへのアドバイスは、友だちの考えに共感してから、自分の意見を言う流れにしている。発言者は、相手に共感し自分のアドバイスを言うことで、相手を認める体験ができ、聞き手は、友だちに認められた体験ができる。

第3に学習したことをワークシートに書き込み、振り返りができるようにしている。これらにより、自分の学習したことについても振り返り、現在の課題に取り組みやすいようにしている。ワークシートを活用していくことで、子どもたちの主体的に取り組む姿勢につなげていくようにしていく。

第4に本グループの他の授業との関連づけや教員との連携である。本グループの授業内容は、このグループの授業を受け持つ教員と授業内容や授業のルールを共有し、他の授業で身につけた力を「職業」の授業で活用できるようにしている。例えば、国語で「教員の話を聞き理解して行動できる力を身につける」ことをねらいとして聞き取りテストを実施しているが、職業の授業では「教員の説明や指示を聞いて行動する場面を設定し、生徒が主体的に行動できる力を育もう。」という目標で様々な活動に取り組んでいる。このようにどの授業でも共通するねらいを設定することで、卒業後の生活に必要な力を身につけられるように考えている。

授業の振り返り

授業を実施してみて、話し合いの場面では生徒から「難しい」との反応があった。しかし、教員が生徒の発言や考え方、伝え方をサポートすることで、相手に伝えようとする姿も見られた。今後は、グループ活動の中で、教員が生徒同士のコミュニケーションを支えながら安心して自分の考えや気持ちを相手に伝える場面を設定して生徒たちの「伝える力」を育てていきたい。後日、このグループの生徒が描いたイラストを生徒に見せ「このイラストどう思う」と聞いたところ、「かわいいね。」「素敵だね。」など一人一人が肯定的なコメントをすることができた。コメントを伝える生徒一人一人の雰囲気が良く、描いた生徒はうれしそうな表情を見せていました。イラストのよさを伝える場面ではあったが、友だちのよさを伝え、共感のコメントを生徒達自らが発言できた。コメントする方、される方も心地の良いコミュニケーションを取れていたと思う。

今回の課題（文を書く、考えをまとめる）は、子どもたちの実態からすると難しい課題ではあったが、教員のサポートで、「取り組んでみよう」という意欲的に活動する姿を見ることができた。コミュニケーションのサポートだけでなく、活動への支えも同様に行うことで、生徒たちの意欲につながると感じている。

肢體不自由教育部門 小學部

肢體不自由教育部門 小學部

| 小学部B4,6学年 おはなし 学習指導案(単元指導計画) | | | |
|------------------------------|-------------------------|------|--|
| 授業名 | おはなし | 教科等 | 国語/自立活動 |
| 対象 | 小学部 B 部門 4・6年生5名 | 指導者 | MT:田村果暖 ST1:藤原万里子 ST2:室伏利治 ST3:花園睦美 |
| 単元名 | かいものしよう!~小田原マーケットへようこそ~ | | |
| 研究授業日 | 令和6年12月17日(火) | 指導期間 | 11月~12月 |
| 時間 | 10:40~11:20 | 場所 | A棟2階 小学部B3組教室 |

単元設定の理由

| | |
|-----|---|
| 児童観 | <p>【本授業のグループ構成について】 本授業のグループは、自立活動を主とする4年生2名、6年生3名の計5名で構成されている。</p> <p>【身体面について】 独歩ができる児童、自分の手で物を掴むことができる児童、動くものや人を目で追うことができる児童、医療的ケアが必要な児童がいる。また、物の受け渡しができる児童、興味のあるものに手を伸ばすことができる児童、教員と一緒に物に触れることができる児童など身体面での実態の幅が広い。</p> <p>【コミュニケーション面での実態】 自ら返事や言葉を発し手ぶりやサインでやり取りができる児童、声や表情、体を動かすことで快不快を伝えることができる児童、iPadを使い自分の考えを言葉で伝える児童がいる。コミュニケーション面での実態の幅も広く、児童によって意思を表出する方法がそれぞれ異なる。</p> <p>【授業での様子】 本授業では、絵本の内容に基づき、様々な体験活動を行ってきた。教員の説明や読み聞かせを集中して聞いたり、教員や友達の動きを見て模倣しようと腕を上げ下げしたりして意欲的に活動する児童が多い。いずれも回数を重ねることで、活動の流れをつかんでいき、順番を聞く際に「行いたい!」と自ら挙手したり、映像や友達の体験活動の様子を見たりするなど、それぞれの方法で意思を表出する姿が見られている。</p> |
| 単元観 | <p>【学習指導要領との関連】 本単元では、以下の目標に基づいて設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校小学部・中学部学習指導要領自立活動 <p>「3 人間関係の形成」(1)他者とのかかわりの基礎に関すること</p> <p>「4 環境の把握」(1)保有する感覚の活用に関すること</p> <p>「5 身体の動き」(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること</p> <p>「6 コミュニケーション」(1)コミュニケーションの基礎能力に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校小学部学習指導要領国語科目目標 <p>「知識及び技能」(1)言葉の特徴や使い方 1段階</p> <p>(1)言葉のもつ音やリズムにふれたり、言葉が表す事物やイメージにふれたりすること。</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>「思考力・判断力・表現力等」(3) C 読むこと 1段階</p> <p>(ア)教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること。</p> <p>【単元設定の理由】</p> <p>本授業では、これまで、『ゆうびんやさんのホネホネさん』や『へんしんトンネル』などの絵本や映像を見て、その内容に基づいた、「ポストに手紙を入れよう」や「好きなものにへんしんしてみよう」などの体験的な活動を行ってきた。</p> <p>今回の単元では、選択し、意思を伝えるという点にねらいを定めた。今後の生活の中で大切なコミュニケーションになりえる活動だと考えたからである。自分でほしいものを選び、自分なりの方法で「くださいな！」と相手に伝えてほしい。自分でほしいものを選ぶことで、より主体的に「くださいな！」のやりとりを行うことができるのでないかと考える。本授業を通して、いろいろなものに興味をもち、友達や教員と一緒に活動することの楽しい雰囲気も味わってほしい。また、友達を意識して身ぶりを模倣したり、歌に合わせて手を叩いたりする児童もあり、皆が一体となって楽しい雰囲気を感じやすいと考え、教材や歌などを取り入れ、工夫した。以上が本単元の設定理由である。</p> |
| 指導観 | <p>【授業の構成や内容について】</p> <p>毎回「1.はじまりのうた」「2.絵本の読み聞かせ」「3.体験活動」「4.ふりかえり」のように流れを統一して、児童が活動の見通しをもてるようにしている。</p> <p>「1.はじまりのうた」では、『だいじょうぶ?ズコッ』の歌に合わせて、友達や教員からの「大丈夫？」の問い合わせに対し、ジェスチャーやスイッチ、声など自分なりの方法で「大丈夫です」と表現する。一人ひとりと触れ合うことで、おはなしの授業が始まったことを意識してほしい。「2.絵本の読み聞かせ」では、絵本を読み、これからの中活動をイメージしやすいようにする。「3.体験活動」では、教員の手本を見てから、一人ずつかいものごっこを行う。今日はどんなものを選ぶのか、自分で選ぶ時間を大切にしたい。また、「くださいな」という場面では、声や身ぶり、ビックマック、お金の教材でのやり取りなど、それぞれの実態に応じた方法で行う。実際の買い物でお金を払うことと同じように、何かアクションすると自分の選んだものが手に入るということを学んでほしいというねらいがある。「4.振り返り」では、児童が選び、ものを手に入れた際に撮った写真を見ることで、自分や友達が何を買ったのか確認できると同時に、その時の様子を思い出すことができるよう工夫した。</p> |

単元の目標

| 三つの柱 | 単元の目標 |
|--------------|---|
| 知識及び技能 | 絵本に注目したり、「くださいな！」の言葉に親しんだりすることができる。 |
| 思考力・判断力・表現力等 | かいもので興味のあるものを選び、自分なりの方法で「くださいな！」を伝えることができる。 |
| 学びに向かう力・人間性等 | 友達や教員と関わりながら、活動に参加しようとする。 |

単元の指導計画(第3時／全4時間)

| 時 | 学習内容 | 学習活動 | 育成を目指す資質・能力 (その時間の目標) |
|-------------------|----------------|---|---|
| 1次 (3時間) 本時 | かいものごっこをしてみよう! | ・ほしいものを選ぶ。 ・「くださいな!」といったり、お金の教材を渡したりして選んだものを受け取る。 ・振り返りで、自分や友達が買ったものを確かめあう。 | ・絵本のお話を聞くことができる。(知・技) ・ほしいものを選ぶことができる。(思・判・表) ・自分なりの方法で「くださいな!」といったり、お金の教材を使ってお金を払ったりすることができる。(思・判・表) ・写真を見て自分や友達のかいものの様子を振り返ることができる。(学・人) |
| 2次 (1時間) | かいものに行ってみよう! | ・ほしい商品を選ぶ。 ・レジでお金を渡し、商品を受け取る。 | ・ほしいものを選ぶことができる。(思・判・表) ・自分なりの方法で「ください!」といったり、お金を払ったりすることができる。(思・判・表) ・友達や教員と関わりながら、活動に参加しようとする。(学・人) |

本時の目標(集団)

- ・絵本に注目したり、「くださいな!」の言葉に親しんだりすることができる。(知識・技能)
- ・かいものごっこでほしいものを選び、自分なりの方法でほしいものを伝えることができる。(思考力・判断力・表現力)
- ・友達の様子に関心をもったり、やりとりを楽しんだりする。(学びに向かう力・人間性等)

個別の実態・本時の個別目標・指導の手立て・評価規準

| 生徒 | 実態 | 個別の目標 | 指導の手立て | 評価規準 (評価の観点) | 達成状況 |
|----|---|---|---|---|------|
| A | ・声や表情、サインで気持ちを表現することができる。 ・教員の話や手本を見て、積極的に模倣しようとする姿勢がみられる。 | ・絵本や写真に注目して内容に関連したサインなどで表現することができます。 ・ほしいものを一つ選び、「くださいな」のタイミングで「な」、またはくださいのサインをすることができます。 | ・言葉やサインでのやり取りを行う場面を設ける。 ・手本を見せ、かいものの流れに見通しがもてるようにする。サインの表出があるときは、一緒に声を出したり、教員が言葉にしたりする。待っている間は一緒に歌を歌うよう促す。 | ・絵本や写真に注目して内容に関連したサインなどで表現することができたか。 ・ほしいものを一つ選び、「くださいな」のタイミングで「な」、またはくださいのサインをすることができたか。 | |
| B | ・声や表情、サインで気持ちを表現することができる。 ・初めての活動は消極的大だが、教員や友達の話や様子をよく見てから、活動することができる。 | ・絵本や写真に注目して内容に関連したサインなどで表現することができます。 ・ほしいものを一つ選び、「くださいな」のタイミングで「ぱー」、またはくださいのサインをすることができます。 | ・言葉やサインでのやり取りを行う場面を設ける。 ・教員や友達のかいものの様子を見せ、安心して活動に取り組めるようにする。サインの表出があるときは、一緒に声を出したり、教員が言葉にしたりする。 | ・絵本や写真に注目して内容に関連したサインなどで表現することができたか。 ・ほしいものを一つ選び、「くださいな」のタイミングで「ぱー」、またはくださいのサインをすることができたか。 | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|--|
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・個別の時間でお金の教材を使い、かいものごっこを行っている。自分のお財布の中身に合計いくら入っているのかが分かる。おつりの出るかいものについて学習している。 ・iPad で自分の気持ちを入力することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ほしいものを一つ選ぶことができる。 ・お金の教材を使って、提示された金額をお財布の中から選び支払うことができる。 ・自分や友達がかいものしている写真を見て、自分の気持ちを iPad で入力し、振り返りで発表することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ほしいものが決ったら、値段を伝える。 ・ほしいものを選んだり、お金のやり取りをしたりする際に、そのものを動かしやすいよう位置や角度を一緒に探す。 ・振り返りの際、iPad を渡す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ほしいものを一つ選ぶことができたか。 ・お金の教材を使って、提示された金額をお財布の中から選び支払うことができたか。 ・振り返りの際に、自分や友達がかいものしている写真を見て自分の気持ちを iPad で入力し、振り返りで発表することができたか。 | |
| D | <ul style="list-style-type: none"> ・テレビの画面や映像を集中してみることができる。電車などが動く映像を好み、上半身を前後に動かして表現することができる。 ・興味があるものに自ら手を出して触ったり、見つめたりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・絵本に注目することができます。 ・歌に興味をもち、上半身を動かすなどして楽しい雰囲気を感じることができます。 ・かいものごっこで2つのものの中からどちらかを選択することができます。 ・ビックマックを押し、「くださいな!」ということができます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせや振り返りの際、再度テレビに注目するよう見やすい場所に移動する。 ・ものやビックマックを目の前に見せるなど興味を引きだす支援をしながら、自発的な動きがあるまで待つ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・絵本に注目することができたか。 ・歌に興味をもち、上半身を動かすなどして楽しい雰囲気を感じることができたか。 ・かいものごっこで2つのものの中からどちらかを選択することができたか。 ・ビックマックを押し、「くださいな!」ということことができたか。 | |
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・友達の様子を見て楽しんだり、その場の雰囲気を盛り上げたりすることが得意である。 ・教員や友達の言葉をよく聞き、知っている言葉に身ぶりやサインでこたえることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や写真に注目したり、友達や自分のかいものの様子に気付いたりすることができます。 ・ほしいものを選び、「ちょうどいい」の身ぶりやサインをすることができます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に合いの手を入れるなどして楽しい雰囲気をつくる。 ・「きまった」や「くださいな」などの本人が身ぶりやサインがしやすい言葉を、はっきりとわかりやすく伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や写真に注目したり、友達や自分のかいものの様子に気付いたりすることができます。 ・ほしいものを選び、「ちょうどいい」の身ぶりやサインをすることができたか。 | |

本時の展開

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点および配慮事項 | 準備物 |
|--------------|---|--|--|
| 10:40 導入 | 1.あいさつ ♪『大丈夫?ズコッ』 ・はじまりの歌を歌う | ・挨拶をし、授業の始まりを意識できるよう にする。(MT) ・一人ひとりと触れ合って、授業が始まっ たことを意識させる。(ST) (MT) | |
| 10:50 展開 | 2.読み聞かせ 『おみせやさんでくださいな!』 3.かいものごっこをしよう ①ほしいものを一つ選ぶ。 ・机上に並ぶ2つ以上の商品の中から興 味のあるものを選ぶ。 ・決まったらそのものを机上の台にのせる。 ②♪『おみせやさんでくださいな』の歌を 歌う。 ♪おみせやさんで かいもの ○○さんの かいもの ○○ひとつ くださいな ③「くださいな」をして、選んだものをもら う。 | ・TV が見やすいような場所に移動する。 (ST) ・児童 D は、授業に集中できる環境にする (位置・衝立などの配慮) (ST) ・一つずつ商品の紹介をする。(MT) ・手本をしてもらう ST を指名する。(MT) ・ほしいものを選択する場面、実態に合わ せて「くださいな」をする場面で支援を行 う。(ST) ・待っている児童に向けて、前へ注目を促 すように適宣言葉がけを行う。(MT) ・「決まった!」の合図で伴奏する。(ST) ・待っている児童にも一緒に歌うよう言葉 がけで促す。(MT) ・それぞれの方法で「くださいな」ができる よう支援を行う。(MT) (ST) ・振り返りの際に児童が何を買ったのか分 かるよう、iPad で写真を撮っておく。 (MT) | ・TV ・iPad ・HDMI コード ・長机 ・テーブルクロス ・果物、パン、電 車の教材 ・台 ・かご ・お金の教材 ・ビックマック ・ピアノ |
| 11:15 まとめ | 4.振り返り ・自分や友達の買い物の様子が写った写 真を見る。 5.あいさつ | ・一人ずつどんなものを選び買ったのか、 写真を見ながら良かった点を具体的に話 しをして共有する。(MT) (ST) ・挨拶をし、授業の終わりを意識できるよ うにする。(MT) | ・TV ・iPad ・HDMI コード |

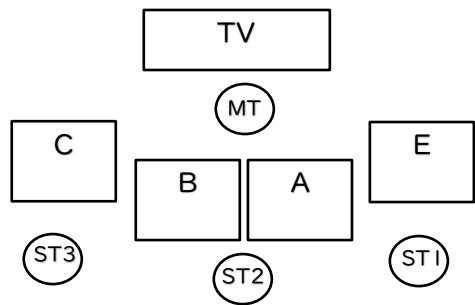
本時の評価(評価規準)

- ・『おみせやさんでくださいな!』のお話を聞くことができている。(知識・技能)
- ・かいものごっこでほしいものを選び、自分なりの方法でかいものできている。(思考力・判断力・表現力)
- ・友達や自分のかいものの様子を写真で見て振り返ることができている。(学びに向かう力、人間性等)

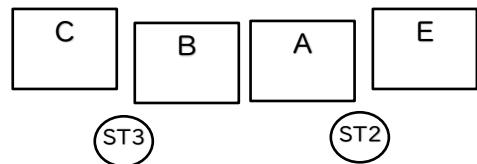
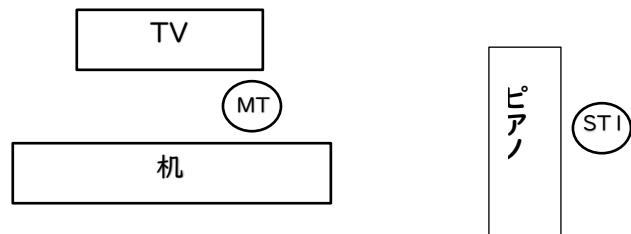
配置図

〈1. あいさつ、2. 読み聞かせ、4. 振り返り、5. あいさつ〉

※当日、児童 D は欠席です。



〈3. かいものごっこをしよう〉



補助シートについて

・それぞれの児童の個別教育計画をもとに補助シートを作成するにあたり、授業内容を考える際の参考になり、個々の児童の課題やクラスの特徴を改めて知ることができた。

授業について

・今回は自分でものを選んで、「くださいな」と伝えることが目標であったが、買い物学習を行う時に、お金のやり取りを中心に行うのか、おみせやさん役も体験する必要があるのかなど、幅広いやり方があるため、やはり目標設定が大切になると改めて感じた。そのためには、常日頃から児童の実態を把握し、できることや難しいことなどを授業内容と重ね合わせて考える必要がある。

・目標設定については、どの児童もおおむね達成できたと考える。研究協議では、一人ひとりに対してもう少し上の目標があるとよいとのご助言もいただいたため、今後授業を行う際には、児童がより達成感を味わえられるような目標設定を意識していきたい。と同時に個々の実態に合わせた授業を行うことの難しさを改めて感じた。

肢體不自由教育部門 中學部

肢體不自由教育部門 中學部

| 中学部B1・2・3学年 音楽 学習指導案(単元指導計画) | | | |
|------------------------------|---------------------|------|------------------------------------|
| 授業名 | 音楽 | 教科等 | 音楽/自立活動 |
| 対象 | 中学部B部門 1・2・3年生7名 | 指導者 | M T:内田哲郎 ST1:澤田香 ST2:内藤千晴 ST3:酒井玲子 |
| 単元名 | 調理器具を楽器のように使ってみよう! | | |
| 研究授業日 | 令和6年10月3日(木) | 指導期間 | 9月~10月 |
| 時間 | 10:40~11:20 | 場所 | B棟2階 中学部B教室 |

単元設定の理由

| | |
|-----|--|
| 生徒観 | <p>【本授業のグループ構成について】</p> <p>本授業のグループは、自立活動を主とする教育課程の中學部1年生2名、2年生2名、3年生3名の計7名で構成されている。全員が肢体不自由と知的障害を併せ有し、日常生活では車椅子を使用している。</p> <p>【身体面・コミュニケーション面での実態】</p> <p>身体面では、医療的ケアを申請している生徒、日常的にてんかん発作がある生徒、独歩ができる生徒、自分の手で物を掴むことができる生徒、教員と協力しながら物に触れる活動を行う生徒など、身体面での実態の幅が広い。</p> <p>コミュニケーション面では、自ら返事や言葉を発し、手ぶりやサインも含めてやり取りができる生徒、快不快のときに声や表情、視線で伝えることができる生徒など、コミュニケーション面での実態の幅も広く、生徒によって意思を表出する方法がそれぞれ異なる。</p> <p>【授業での様子】</p> <p>本授業では、器楽や身体表現など、様々な体験活動を行ってきた。授業を何回か積み重ねるにつれ、少しづつ活動内容を受け入れて、表情や声で近くの友達や教員に快不快を伝える、順番を訊く際に「やりたい!」という気持ちを周りにアピールするなど、生徒がそれぞれの方法で意思を表出する姿が見られた。また、体験活動前に、教員が活動内容の見本を見せたことで、活動の見通しを持てるようになり、より意欲的に参加しようとする姿を見ることができた。</p> <p>上記のような実態から、生徒の体調やペースに合わせながら、様々な体験活動を行い、近くの友達や教員とのやり取りを通して、様々な音や音への興味関心を広げるとともに、音楽の中で人と関わり合う楽しさを学んで欲しいと考える。</p> |
| | <p>【学習指導要領との関連】</p> <p>本単元では、以下の自立活動の項目と、音楽の目標に基づいて設定している。</p> <p>○特別支援学校中学部学習指導要領(平成31年2月告示)第6章自立活動の内容</p> <p>「3 人間関係の形成」(1)他者とのかかわりの基礎に関すること</p> <p>「4 環境の把握」(1)保有する感覚の活用に関すること</p> <p>「5 身体の動き」(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること</p> <p>「6 コミュニケーション」(1)コミュニケーションの基礎能力に関すること</p> |
| 単元観 | |

| | |
|-----|---|
| | <p>○特別支援学校小学部学習指導要領(平成29年4月告示)音楽Ⅰ段階目標</p> <p>(ア) 知識及び技能</p> <p>音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心を向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(イ) 思考力、判断力、表現力等</p> <p>音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聞くことができるようになる。</p> <p>(ウ) 学びに向かう力、人間性等</p> <p>音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしようとする態度を養う。</p> <p>【単元設定の理由】</p> <p>本授業では、器楽だけでなく、教員扮する貴族を相手に3拍子のリズムに乗ってワルツを踊る活動や、オーケストラの指揮者の疑似体験など、様々な体験活動を行ってきた。『音楽だから楽器を演奏する活動を取り入れよう』としたが、本グループは中学部の生徒で構成されているため、この7~9年間の音楽の授業で楽器はある程度経験しているのではないかと考えた。そこで、調理実習などで触れた経験のあると思われる「調理器具」を楽器のように使用して、音を鳴らす活動を取り入れようとと考え、本単元を設定した。今まで触れてきた楽器とは一味違った音に気付き、生徒ができる動きや演奏を楽しめる方法で、自分らしく音を鳴らして欲しいという願いを込めている。</p> |
| 指導観 | <p>【授業の構成や内容について】</p> <p>生徒が見通しを持って取り組めるように、毎回授業の流れを「1はじまりの歌」「2活動」「3鑑賞」のように統一している。初めのあいさつをした後に、毎回「今日やること」と、授業スライドに表示して授業の流れを提示し、生徒が安心感や期待感を持って授業に取り組めるようにしている。</p> <p>「1はじまりの歌」では、通年で「おとのマーチ」の歌唱を行う。1番は歌詞通りに歌い、2番は順番にペットボトルでできたマラカスを回し、「〇〇さん(生徒の名前が入る)の音がする♪」のタイミングでマラカスを使って音を出す活動を行う。生徒の実態に合わせて、教員と一緒にマラカスを鳴らしたり、鳴らした後に置くカゴを用意したりする。ここでは、できる限り生徒の動きで音が鳴るまで待つようにする。</p> <p>「2活動」では、単元ごとのテーマに沿った活動を行う。</p> <p>「3鑑賞」では、終わりの意識やクールダウンを目的としているため、ゆったりした曲の鑑賞を行う。可能な限り教員が生演奏をし、生徒の興味を引き寄せられるように意識している。</p> <p>【教材教具の工夫について】</p> <p>生徒にとって見やすい授業スライドを心掛け、黒地の白文字を採用しており、文字に加えてイラストを提示するように心掛けている。また、使用するテレビに注目をしてもらうために、授業スライドのアニメーションに効果音を追加している。始まりの歌で使用するマラカスは、生徒の少しの動きでも音が鳴るように、熱帯魚用の軽石をペットボトルに入れている(「教材・教具」の写真①)。</p> <p>生徒が得意な動きで調理器具を鳴らすことができるように、色々な大きさのマレット、穴を開けたヒノキのボールにゴムを通したもの(「教材・教具」の写真②)、ビーズ付き手袋(「教材・教具」の写真③)など、実態</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>に合わせて教具を用意している。また、使用するざるとフライパンは、大きさが異なるものを何種類か用意する。必要に応じてトライアングル用のスタンドで、ざるとフライパンを吊るし、自分の動きで鳴らすことができたという達成感を得やすいうように意識している。</p> <p>【指導上の配慮について】</p> <p>「2活動」に入る前には、生徒が見通しを持って活動に参加できるようにするために、教員による見本を見せるようとする。活動に参加するときは、「自分から手を伸ばして取り組む」「教員が手を添えてやり取りをしながら取り組む」など、生徒の実態に考慮して支援方法を変えるようにする。また、体調が安定しなかったり発作を起こしたりする生徒もいるため、その生徒の体調に合わせたペースで参加できるようにする。</p> <p>この活動は、一人ずつ前に出て行う活動であるため、順番を待っている生徒には、活動に取り組んでいる前方へ注目を促したり手拍子などで盛り上げたりするように言葉かけを行う。また、生徒と教員とでやり取りをする機会を設定することで、生徒も教員も一緒に音楽をしているという風に、楽しい音楽の空間を作り出せるようにしたいと考えている。</p> |
|--|---|

単元の目標

| 三つの柱 | 単元の目標 |
|--------------|---|
| 知識及び技能 | 自分に合う演奏方法で、調理器具の音を鳴らすことができる。 (自立活動「4環境の把握」、「5身体の動き」) |
| 思考力・判断力・表現力等 | 自分の鳴らした音に気が付き、活動を通して自分の気持ちを表現できる。 (自立活動「4環境の把握」) |
| 学びに向かう力・人間性等 | 友だちや教員と関わりながら、自分の意志で活動に参加しようとする。 (自立活動「3人間関係の形成」、「6コミュニケーション」) |

単元の指導計画(第3時／全4時間)

| 時 | 学習内容 | 学習活動 | 育成を目指す資質・能力 (その時間の目標) |
|------------|-----------------------------|--|---|
| 1時 | 「ざる」を鳴らしてみよう | ・ざるに触れる。 ・どの鳴らし方が良いかを確かめる。 ・曲に合わせて鳴らしてみる。 | ・自分に合う演奏方法で、ざるを鳴らすことができる。(知・技) ・自分の鳴らした音に気付くことができる。(思・判・表) ・友達や教員と関わりながら、自分の意志で活動に参加しようとする。(学・人) |
| 2時 | 「フライパン」を鳴らしてみよう | ・フライパンに触れる。 ・どの鳴らし方が良いかを確かめる。 ・曲に合わせて鳴らしてみる。 | ・自分に合う演奏方法で、フライパンを鳴らすことができる。(知識・技能) ・自分の鳴らした音に気付くことができる。(思・判・表) ・友達や教員と関わりながら、自分の意志で活動に参加しようとする。(学・人) |
| 3時 (本時) | 曲に合わせて「ざる」と「フライパン」を鳴らしてみよう! | ・曲に合わせて、ざるとフライパンを鳴らしてみる。 | ・自分に合う演奏方法で、調理器具を鳴らすことができる。(知・技) ・自分の鳴らした音に気付き、活動を通して自分の気持ちを表現できる。(思・判・表) ・友達や教員と関わりながら、自分の意志で活動に参加しようとする。(学・人) |
| 4時 | | | |

本時の目標(集団)

- ・自分に合う演奏方法で、調理器具の音を鳴らし、二つの音の違いを理解できる。(知識・技能)
- ・自分の鳴らした音に気付き、活動を通して自分の気持ちを表現できる。(思考力・判断力・表現力)
- ・友達や教員と関わりながら、自分の意志で活動に参加しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

個別の実態・本時の個別目標・指導の手立て・評価規準

| 生徒 | 実態 | 個別の目標 | 指導の手立て | 評価規準 (評価の観点) | 達成状況 |
|----|--|---|--|--|------|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・興味のあるものに手を伸ばして掴んだり、耳に当てて音を聴いたりする。 ・オーケストラの映像や音楽に興味を持ち、身体を左右に揺らすなどして、楽曲の楽しい雰囲気を感じることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分のタイミングで調理器具を鳴らすことができる。(知・技) ・2つの調理器具のうち、先にやりたい方を選択し、近くの教員に伝えることができる。(思・判・表) ・調理器具を鳴らすことによる興味を持ち、自分から触れたり音を出したりすることができます。(学・人) | <ul style="list-style-type: none"> ・目標物を目の前に見せるなど興味を引きだす支援をしながら、自発的な動きがあるまで待つ。 ・色々な動きができるため、引っ張る、マレットで叩くなど演奏方法の選択肢を提示する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分のタイミングで調理器具を鳴らしている。(知・技) ・2つの調理器具のうち、先にやりたい方を選択し、近くの教員に伝えている。(思・判・表) ・楽器を鳴らすこと興味を持ち、自分から触れたり音を出したりしている。(主) | |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・関心がある人や物に対して視線を向け、声を出して関わろうとすることができる。 ・手元に注目しながら、随意的に指先を動かすことができる。 ・賑やかな活動や楽しいことがあると興奮して体温が上がることがある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の動きで調理器具を鳴らすことができる。(知・技) ・活動内容を受け入れ、表情や目線で気持ちを表現することができる。(思・判・表) ・落ち着いて音楽の時間を楽しく過ごすことができる。(学・人) | <ul style="list-style-type: none"> ・体調に配慮して、無理のない範囲で活動に参加する。 ・自発的な動きがあるまで待つ。 ・ビーズ付き手袋を装着し、少しの動きでも鳴らせるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の動きで調理器具を鳴らしている。(知・技) ・活動内容を受け入れ、表情や目線で気持ちを表現している。(思・判・表) ・落ち着いて音楽の時間を楽しく過ごしている。(主) | |
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・人と関わることが好きで、活動への参加に対し意欲的である。また、言葉がけに声を出したり手を出したりして応えることがある。 ・緊張したときなど、全身が突っ張るような発作が時折みられる。 ・右手が優位で、腕や手をよく動かす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分のタイミングで調理器具を鳴らすことができる。(知・技) ・順番を決める場面や先に演奏する調理器具を選択する場面で「やりたい」という気持ちを伝えることができる。(思・判・表) ・教員と協力しながら鳴らしやすい方法を見つけ、自分のできる範囲で活動に参加しようとする。(学・人) | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に首が傾くことがあるため、適宜姿勢介助を行う。 ・自発的な動きがあるまで待ち、発信があったときは、言葉でフィードバックをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分のタイミングで調理器具を鳴らしている。(知・技) ・順番を決める場面や演奏する調理器具を選択する場面で「こっちをやりたい」という気持ちを伝えている。(思・判・表) ・教員と協力しながら鳴らしやすい方法を見つけ、自分のできる範囲で活動に参加している。(主) | |
| D | <ul style="list-style-type: none"> ・四肢体幹の筋緊張が入りやすい。 ・表情や発声などで、快 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員とやり取りしながら、調理器具を鳴らすことができる。(知・技) | <ul style="list-style-type: none"> ・体調に配慮して、無理のない範囲で活動に参 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員とやり取りしながら、調理器具を鳴らしている。(知・技) | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|--|--|
| | <p>不快の表出をすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し経験することで活動内容を受け入れ paramString 増えていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して、意志の表出ができる。(思・判・表) ・教員と協力しながら鳴らしやすい方法を見つけ、自分のできる範囲で活動に参加しようとする。(学・人) | <p>加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自発的な動きがあるまで待ち、発信があったときは、言葉でフィードバックをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して、意志を表出している。(思・判・表) ・教員と協力しながら鳴らしやすい方法を見つけ、自分のできる範囲で活動に参加しようとする。(主) | |
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・両手の指を組んで、手もみや口に手を入れていることが多い。 ・手を伸ばして好きな物を取ったり、手で振って楽器の音を出したりすることができる。 ・発声で気持ちを伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合う演奏方法で、調理器具を鳴らすことができる。(知・技) ・活動を通して、楽しい気持ちを近くの友達や教員に向けて表現することができる。(思・判・表) ・演奏する調理器具に注目し、自分から触れたり音を出したりすることができる。(学・人) | <ul style="list-style-type: none"> ・目標物を目の前に見せるなど興味を引きだす支援をしながら、自発的な動きがあるまで待つ。 ・表情や声などの発信を汲み取ってフィードバックをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合う演奏方法で、調理器具を鳴らしている。(知・技) ・活動を通して、楽しい気持ちを近くの友達や教員に向けて表現している。(思・判・表) ・演奏する調理器具を注目し、自分から触れたり音を出したりしている。(主) | |
| F | <ul style="list-style-type: none"> ・見本があることで見通しをもって活動に参加できる。 ・手遊び歌が好きで、曲に合わせて手拍子や手振りをすることができます。 ・近くに物があると気になり、その方へ向けて手が伸びることがある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・曲のリズムに合わせて調理器具を鳴らし、二つの音の違いが理解できる。(知・技) ・活動を通して、曲や演奏の楽しさを見出すことができる。(思・判・表) ・活動内容に興味を持ち、活動の一連の動作を自力で行うことができる。(学・人) | <ul style="list-style-type: none"> ・活動の見本を見せて、見通しが持てるようにする。 ・手の届く範囲に物がないようにする。 ・待っている間は手拍子をして盛り上げてもらうように言葉掛けをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・曲のリズムに合わせて調理器具を鳴らし、二つの音の違いを理解している。(知・技) ・活動を通して、曲や演奏の楽しさを見出している。(思・判・表) ・活動内容に興味を持ち、活動の一連の動作を自力行っている。(主) | |
| G | <ul style="list-style-type: none"> ・人と関わることが好きで、教員による言葉がけに対して、「はい」などと言って応じることができる。 ・学習には意欲的で、基本的に何にでも興味がある。 ・大きな音に敏感。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合ったやり方で曲に合わせて調理器具を鳴らし、二つの音の違いが理解できる。(知・技) ・活動を通して、曲や演奏の楽しさを見出すことができる。(思・判・表) ・友達や教員との関わりを楽しみながら、活動に参加しようとする。(学・人) | <ul style="list-style-type: none"> ・順番を決める場面や選択する場面などで、言葉でのやり取りを行う場面を設定する。 ・授業スライドの音量に注意し、大きな音が鳴るときは予告をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合ったやり方で、曲に合わせて調理器具を鳴らし、二つの音の違いを理解している。(知・技) ・活動を通して、曲や演奏の楽しさを見出している。(思・判・表) ・友達や教員との関わりを楽しみながら、活動に参加している。(主) | |

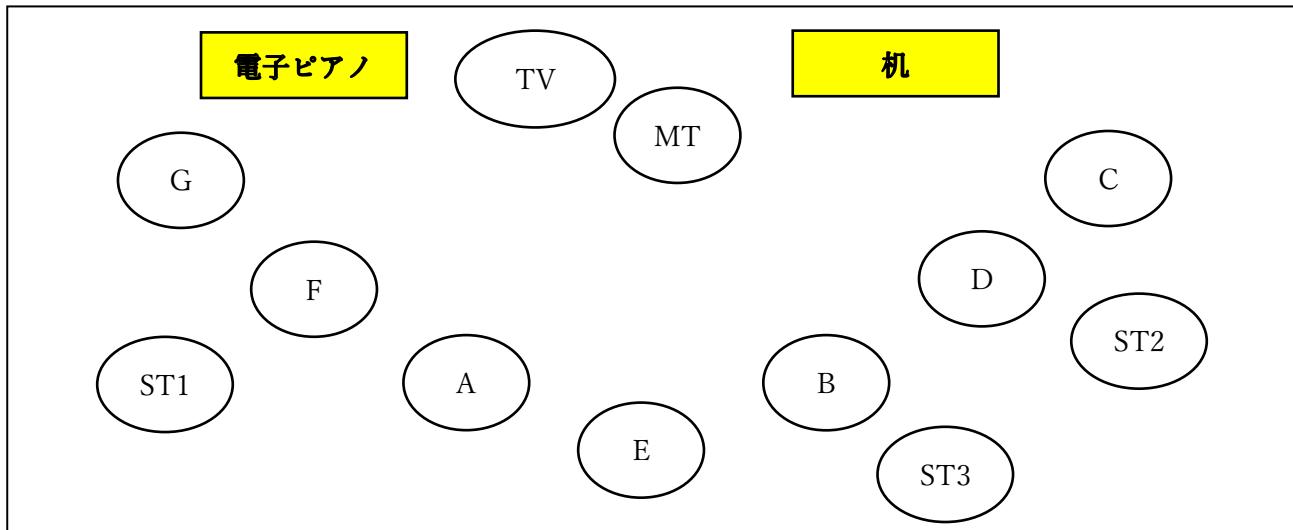
本時の展開

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点および配慮事項 |
|--------------|---|---|
| 10:45 展開Ⅰ | <p>① 初めのあいさつ 日直の生徒の号令であいさつをする。</p> <p>② 学習の流れを発表 スライドを見て、本時の学習の流れを知る。 1. 始まりの歌 2. 活動 3. 鑑賞</p> <p>③ 始まりのうた 使用する曲「おとのマーチ」 ・1番はみんなでうたう ・2番は「○○さんの音がする」で楽器を鳴らし、人数分繰り返す</p> | <ul style="list-style-type: none"> 姿勢を正し、授業の始まりが意識できるように支援する。 授業スライドに注目しやすいようにアニメーションに効果音を入れる。 歌詞 <ul style="list-style-type: none"> 1.おいで おいで 大きな音がする ×2 みんな みんな 大きな気分になっちゃった おいで おいで 大きな音がする ×2 2.おいで おいで ○○さんの音がする ※人数分繰り返す ・伴奏は MT がピアノで演奏する。 |
| 10:50 展開Ⅱ | <p>④ 活動 「調理器具を楽器のように使ってみよう！」</p> <p>活動の順番 1.普段から食べている物は、調理器具を使用して料理をされていることを知る。 2.調理器具で演奏している曲の映像を見る。 3.STによる活動の見本を見る。 4.演奏する順番を決め、一人ずつ前に出て、MTが出合図に合わせて音を鳴らす。 順番を待っている間は、前方へ注目する。 ※ざる、フライパンで2回演奏をするが、先にどちらで演奏するかは生徒が選択する。</p> <p>使用する曲「今日の料理 テーマ」</p> | <ul style="list-style-type: none"> スライドにイラストを表示して説明する。 MTは見本をしてもらう STを指名する。 STは生徒が調理器具を選択する場面、実態に合わせて演奏する場面、調理器具を持ち替える場面で支援を行う。 順番を待っている生徒に向けて、前へ注目を促すように適宣言葉がけを行う。 伴奏は MT がピアノで演奏する。 |
| 11:15 展開Ⅲ | <p>⑤ 鑑賞 ショパン「夜想曲作品9の2」 ・夜想曲とは?どんな曲か知る。 ・MTによるピアノ演奏を聴く。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 夜をイメージした曲であるため、教室を少し暗くする。 終わりの意識、クールダウンが目的である。 |
| 11:20 | <p>⑥ 終わりのあいさつ 日直の生徒の号令であいさつをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 姿勢を正し、授業の終わりが意識できるように支援する。 |

本時の評価(評価規準)

- 自分に合う演奏方法で、調理器具を鳴らし、二つの音の違いを理解している。(知識・技能)
- 自分の鳴らした音に気付き、活動を通して自分の気持ちを表現している。(思考・判断・表現)
- 友達や教員と関わりながら、活動に参加している。(主体的に学習に取り組む態度)

配置図

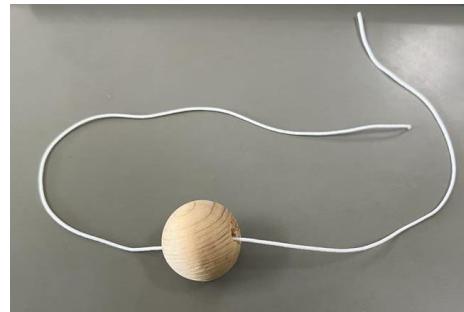


教材・教具

テレビ、iPad、電子ピアノ、ペットボトルでできたマラカス(写真①)、マラカスを入れるカゴ、ざる・フライパン(大きさが異なるものを何種類か用意する)、マレット(大きさが異なるものを何種類か用意する)、トライアングル用のスタンド、ヒノキのボールにゴムを通したもの(写真②)、ビーズ付き手袋(写真③)

写真②ヒノキのボールにゴムを通したもの

写真①ペットボトルでできたマラカス



写真③ビーズ付き手袋



中B 研究のまとめ

・補助シートについて

生徒の個別教育計画を基に補助シートを作成することで、指導案作成の際に個別の目標を明確にすることができる、授業づくりに役立てることができた。補助シートを踏まえて、指導案で個別の目標を設定するにあたり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性等」の3項目に沿って目標立てを行った。

・授業について

今回の授業では、「調理器具を楽器のように使ってみよう!」という活動を行った。活動内容は、「1.ざる・フライパンのうち、先にどちらで演奏するかを選択する」「2.選んだ方を、曲に合わせて鳴らす」「3.調理器具を持ち替える」「4.再び曲に合わせて鳴らす」といった流れで行った。その中で、「活動を通して意志の表出ができる」「順番を決める場面や先に演奏する調理器具を選択する場面で『やりたい』という気持ちを伝えることができる」などといった、生徒の個別教育計画に関連した個別の目標を設定した。

授業をしてみて、個別の目標を概ね達成することができた。補助シートを基に指導案を作成することで、活動の中で重きを置く場面をより明確にでき、授業の中で「ここがよかったね!」「ここ頑張ってたね!」など、言葉でフィードバックすることができた。研究協議では、もっと内容を踏み込んだ目標を立ててもよかった、などといった助言をいたため、今回の取り組みを今後の授業づくりでも役立てていきたい。

肢體不自由教育部門 高等部

肢體不自由教育部門 高等部

授業者 中村 徹
校内指導員 石川幸司
拠点校指導教員 有田 巍

| 高等部B 1・2学年 IIIグループ 理科家庭 学習指導案(単元指導計画) | | | |
|---------------------------------------|---------------------------|------|---|
| 授業名 | 理科・家庭 | 教科等 | 家庭/自立活動 |
| 対象 | 高等部B部門 1・2年生 IIIグループ7名 | 指導者 | MT:中村徹 ST1:石川幸司 ST2:大塚直 ST3:竹松由香 ST4:山崎真由子 ST5:吉田ゆめ |
| 単元名 | 祭りや縁日などの伝統行事を楽しもう | | |
| 研究授業日 | 令和6年 10月 10日(木) | 指導期間 | 9月 13日~10月 10日 木曜日5回 |
| 時間 | 10:45~11:25 | 場所 | B棟1階 高等部B1・2年教室 |
| 研究協議 | | | |
| 時間 | 16:00~16:30 | 場所 | 高 B1・2年教室 |

単元設定の理由

| | |
|-----|---|
| 生徒観 | <p>【本授業のグループ構成について】</p> <p>本グループは、自立活動を主とする教育課程の高等部1年生 5名（男子生徒1名、女子生徒4名）、2年生2名（男子生徒1名、女子生徒1名）の計7名で構成されている。全員が肢体不自由と知的障がいを併せ有している。日常生活では、全員が車いすを所有している。</p> <p>【身体面での実態】</p> <p>胃ろうや導尿等の医療的ケアのある生徒や日常的にてんかん発作がある生徒、支援を受けながら歩行に取り組んでいる生徒、自分の身体のことを学習し筋緊張を緩めることに取り組んでいる生徒、学校に足が向かず登校日数の少ない生徒、教員と協力しながら物に触れる活動を行う生徒など、精神面も含め身体面での実態の幅は広い。</p> <p>【コミュニケーション面での実態】</p> <p>自分の気持ちを素直に言葉で表現する生徒や手話を通して自分の気持ちを伝える生徒、短い言葉で伝える生徒、手を挙げたり笑顔で応えたりして返事をする生徒等、コミュニケーション面での実態の幅も広い。</p> <p>【授業での様子】</p> <p>今年度は、季節の移り変わりを意識したり、土や野菜に触れるなどの自然を体験したりしながら学習活動をしてきた。春には校内の草花を見ながら散策したり、夏野菜を選んで植えたり、その成長を観察しながら育てたり、梅雨を意識しながら造形活動に取り組んだりしてきた。その活動を通して、自発的に手を動かすことで手指の巧緻性を高めたり、友だちや教員と協力する体験をしたりしてきた。本授業では、これまで季節の移り変わりを意識しながら、手指を使ったり、他者と協力したりして取り組んできたことを活かして、地域の伝統行事をテーマに設定した。各地域の祭りや縁日の様子を映像で観ながら、季節を意識したり、手指を使って神輿や的当てをつくったりすることで、よりより生活の実現に向けて、余暇の楽しみ方を見つけたり、他者と協力することで自らの生活を豊かにする力が身につくと考えている。</p> |
| | |

| | |
|-----|---|
| 単元観 | <p>【学習指導要領との関係】</p> <p>本単元は、以下の家庭科の目標と自立活動の項目に基づいて設定している。</p> <p>○特別支援学校学習指導要領高等部(知的障害教科等編 下) [家庭] I段階</p> <p>(1) 目標</p> <p>ウ 家庭や地域の人々との関わりを通して、よりより生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。</p> <p>(2) 内容 A 家族・家庭生活</p> <p>イ 家庭生活での役割と地域との関わり</p> <p>(ア) 家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることに気付くこと。</p> <p>(イ) 家族と地域の人々とのよりより関わり方について考え、表現すること。</p> <p>ウ 家庭生活における健康管理と余暇</p> <p>(ア) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解し、実践すること。</p> <p>(イ) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、表現すること。</p> <p>○特別支援学校高等部学習指導要領(平成31年2月告示)第6章自立活動の内容</p> <p>3 人間関係の形成</p> <p>(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。</p> <p>(4) 集団への参加の基礎に関すること。</p> <p>4 環境の把握</p> <p>(1) 保有する感覚の活用に関すること。</p> <p>6 コミュニケーション</p> <p>(1) コミュニケーションの基礎能力に関すること。</p> <p>【単元設定理由】</p> <p>生徒たちは、卒業後、地域社会の一員として生活する。各地域には、祭りや縁日などの伝統行事を催すところも多い。本単元では、各地域の伝統行事を通して、地域社会で生活していく生徒たちの社会参加を考えて単元を設定した。祭りや縁日が季節に関わりがあることを知り、神輿づくり等を通して、地域の人々との協力が大切であることに気付くこともできる。さらに、神輿を担いで練り歩いたり的当てを楽しんだりすることで、余暇の有効な過ごし方について考えたり表現したりすることができると考え設定した。</p> <p>【本単元の構成について】</p> <p>本単元は、全5時間で構成されている。1時間目では、小田原や平塚等、神奈川県内の各地域の祭りについて映像を通して学習した後、神輿の外観を装飾するために、お花紙で花をつくり貼り付けるための画用紙をちぎったり、スズランテープをほぐしポンポンを作ったりした。2時間目は、県外の祭りについて学習した後、お花紙や画用紙等を貼り付けて神輿づくりを行った。3時間目は、神輿を完成させた後、縁日について映像を通して学習した。その後フィルムや風船を使って的当ての的づくりを完成させた。4時間目は、前半、神輿の練り歩きを行い、後半は、的当てを行った。神輿の練り歩きについては、B棟玄関を往復し、引っ張る生徒と先導する生徒を決めた。的当てについては、ホストとゲストに分かれて、順番に行った。</p> |
| | |

| | |
|-----|---|
| 指導観 | 【授業の構成や内容について】 |
| | 生徒が見通しを持って活動ができるように、毎回授業の流れを、①「今日やること」（前回の復習を含む）、②「めあて」、③「振り返り」に統一する。ホワイトボードへ掲示して、授業の展開を意識できるようにしている。 |
| | 【教材教具の工夫について】 |

制作場面では、教員が手本を見せたり、素材をあらかじめ触れさせるようにしたりして、見通しが持てるようにする。また、生徒の特性に合わせて、お花紙を一枚ずつ開く等の手指の巧緻性を高める活動や画用紙を大きく破る等の粗大的な活動をしながら楽しめるようにする。

【指導上の配慮について】

気持ちが高ぶり、大きな声が出る生徒に対しては、教室の洗面台付近で過ごす等、落ち着くことのできる場所の近くで活動する。視覚に課題のある生徒に対しては、できるだけ言葉かけや音響、手指等の感覚器官を通して、見通しが持てるようにする。手の可動域の狭い生徒に対しては、筋緊張を緩めたり、手を動かしたりして可動域が広がりやすいように授業前から取り組みを行う。

単元の目標（三つの柱が実現できるように）

| 三つの柱 | 単元の目標 |
|--------------|---|
| 知識及び技能 | ・日本のお祭りを理解し、様々な人々と共に協力し助け合って生活することの大切さに気付く。 (自立活動「3 人間関係の形成」「4 環境の把握」「6 コミュニケーション」) |
| 思考力・判断力・表現力等 | ・神輿の練り歩きや射的を楽しむことができ、余暇の有効な過ごし方について考え、表現する。 (自立活動「3 人間関係の形成」「4 環境の把握」「6 コミュニケーション」) |
| 学びに向かう力・人間性等 | ・地域の行事に関心を持ち、人々との関わりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を楽しもうとする。 (自立活動「3 人間関係の形成」「4 環境の把握」「6 コミュニケーション」) |

単元の指導計画（第5時／全5時間）

| 次／時間目 | 学習内容 | 学習活動 | 育成を目指す資質・能力 (その時間の目標) | 備考 |
|-------|------------------------|----------------------------|--|----|
| 1 | ・お祭りについて知る ・お神輿をつくる | ・映像等からお祭りのイメージを持ち、神輿を制作する。 | ・各地域の祭りについて知る。(知・技) ・祭りをイメージして、神輿のデザインを考える。(思・判・表) ・友だちや教員と協力して、神輿をつくる。(学・人) | |
| 2 | ・神輿を完成させる | ・お花紙等を使って、神輿をデコレーションする。 | ・各地域の祭りについて知る。(知・技) ・祭りをイメージして、神輿のデザインを考える。(思・判・表) ・友だちや教員と協力して、神輿をつくる。(学・人) | |
| 3 | ・縁日について知る。 | ・ペットボトルにフィルムを貼る。 | ・縁日の謂れや、どのようなお店があるかを知る。(知・技) | |

| | | | | |
|---|----------------------------------|---|---|--|
| | ・的当てを制作する | | ・縁日をイメージして、的当ての的をつくる。(思・判・表) ・友だちや教員と協力して、的当ての準備をする。(学・人) | |
| 4 | ・神輿を担いで練り歩く ・的あてをする | ・神輿を引っ張って、B棟玄関まで練り歩く。 ・的あてを主催者と参加者に分かれて的あてをする。 | ・様々な人々と共に協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技) ・余暇の有効な過ごし方について理解し、活動を楽しむことができる。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え、活動に参加することができる。(学・人) | |
| 5 | ・神輿を引っ張って練り歩く ・的当てをする (本時) | ・神輿を引っ張って、B棟玄関まで練り歩く。 ・順番に的当てを行う。 | ・様々な人々と共に協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技) ・余暇の有効な過ごし方について理解し、活動を楽しむことができる。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え、活動に参加することができる。(学・人) | |

本時の目標（集団）

- ・様々な人々と共に協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技)
- ・余暇の有効な過ごし方について理解し、活動を楽しむことができる。(思・判・表)
- ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え、活動に参加することができる。(学・人)

個別の実態・本時の個別目標・指導の手立て・評価規準

| 生徒 | 実態 | 個別の目標 | 指導の手立て | 評価規準(評価の観点) | 達成状況 |
|----|---|---|---|---|------|
| A | ・身体を前屈するようなてんかん発作があるため、保護帽を着用している。 ・物をつかむことができる。左手優位であるが、興味がある物に対しては右手を使うこともある。 ・快不快のときに声を出して伝えることができる。 | ・友だちや教員と協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技) ・神輿の練り歩きや的あてに落ち着いて参加することができる。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え、活動に参加することができる。(学・人) | ・言葉かけや絵カードを提示する等、見通しが持てるように支援する。 ・気持ちがたかぶるときには、洗面台等で過ごせるように、移動しやすい場所で学習する。 ・授業前に教材等に触れる時間を設ける等、あらかじめ活動内容を | ・友だちや教員と協力し助け合うことの大切さに気付いて活動している。(知・技) ・神輿の練り歩きや的あてに落ち着いて参加している。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え、活動に参加している。(学・人) | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|--|
| | | | 伝えて、授業に入りやすくする。 | | |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・移動は車いすであるが、授業中はアームサポートのある椅子に座って活動している。 ・自ら返事や言葉を発して、手振りやサインも含めてやり取りができる。 ・初めて体験する内容については慎重な面が見られるが、見本があることで見通しを持って活動することができる。(学・人) | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と共に協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技) ・神輿の練り歩きや的あての活動を楽しむことができる。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え活動することができる。(学・人) | <ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教材等に触れる時間を設ける等、あらかじめ活動内容を伝えて、授業に入りやすくする。 ・言葉かけや絵カードを提示する等、見通しが持てるように支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と共に協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技) ・神輿の練り歩きや的あての活動を楽しむことができる。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え活動することができる。(学・人) | |
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・車いすを所有しているが、歩行の練習をしている。短い距離であれば独歩も可能である。 ・手を使って活動できる。短い時間ではあるが、手元を見て作業することができる。 ・名前を呼ぶと返事をすることができる。快不快は、表情や声などで伝えることができる。(学・人) | <ul style="list-style-type: none"> ・友だちや教員と協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技) ・神輿の練り歩きや的あてに落ち着いて参加することができる。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え、活動に参加することができる。(学・人) | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉かけや絵カードを提示する等、見通しが持てるように支援する。 ・説明時間を短くして、すぐに活動に入られるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・友だちや教員と協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技) ・神輿の練り歩きや的あてに落ち着いて参加することができる。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え、活動に参加することができる。(学・人) | |
| D | <ul style="list-style-type: none"> ・常に車いすで移動している。装具着用時、短距離の独歩が可能。移乗のときは、立位をとる等、協力動作がある。 ・手を使って作業をすることができる。自信を持って手先を動かすことに取り組んでいる。 ・自分の気持ちを素直に言葉で伝えることができる。(学・人) | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と共に協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技) ・余暇の有効な過ごし方について理解し、活動を楽しむことができる。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え、活動に参加することができる。(学・人) | <ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教材等に触れる時間を設ける等、あらかじめ活動内容を伝えて、授業に入りやすくする。 ・ところどころに質問コーナーを設けて授業に見通しが持てるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と共に協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技) ・余暇の有効な過ごし方について理解し、活動を楽しむことができる。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え、活動に参加することができる。(学・人) | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・短い距離は、支援を受けながら歩行することができる。 ・物を挟んだり被せたりする等、手指の巧緻性を高める活動に取り組んでいる。 ・指文字や手話、身振り等で自分の気持ちを伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と共に協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技) ・余暇の有効な過ごし方について理解し、活動を楽しむことができる。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え、活動に参加することができる。(学・人) | <ul style="list-style-type: none"> ・説明時間を短くして、すぐに活動に入られるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と共に協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技) ・余暇の有効な過ごし方について理解し、活動を楽しむことができる。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え、活動に参加することができる。(学・人) |
| F | <ul style="list-style-type: none"> ・視覚に課題があるが、周りの様子を感じ取りながら過ごしている。 ・支援者と一緒に手で掴んだり、引っ張ったりしながら活動している。 ・名前を呼ばれるときや楽しい活動では、笑顔で伝えたり気持ちを表したりすることができます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と共に協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技) ・神輿の練り歩きや的あての活動を楽しむことができる。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え活動することができる。(学・人) | <ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教材等に触れる時間を設ける等、あらかじめ活動内容を伝えて、授業に入りやすくする。 ・言葉かけや絵カードを提示する等、見通しが持てるように支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と共に協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技) ・神輿の練り歩きや的あての活動を楽しむことができる。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え活動することができる。(学・人) |
| G | <ul style="list-style-type: none"> ・筋緊張が強いときは、顔を上に向けることがあるが、口を閉じて頭を下げるようになると、緩めることができます。 ・車いすの机に置いたタオル等は、手腕を動かして落とすことができる。 ・問いかけには、両手を挙げたり、声に出したりして、自分の気持ちを伝えることができます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と共に協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技) ・神輿の練り歩きや的あての活動を楽しむことができる。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え活動することができる。(学・人) | <ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教材等に触れる時間を設ける等、あらかじめ活動内容を伝えて、授業に入りやすくする。 ・言葉かけや絵カードを提示する等、見通しが持てるように支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と共に協力し助け合うことの大切さに気付いて活動することができる。(知・技) ・神輿の練り歩きや的あての活動を楽しむことができる。(思・判・表) ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え活動することができる。(学・人) |

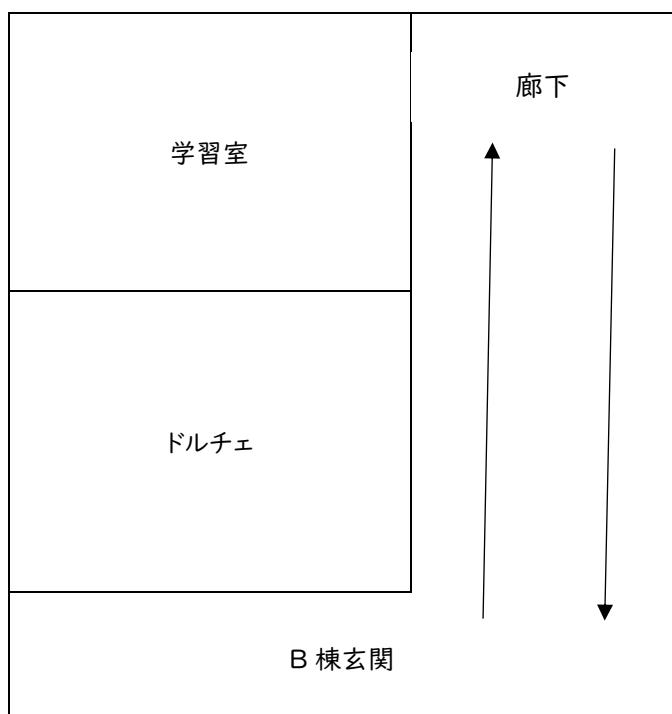
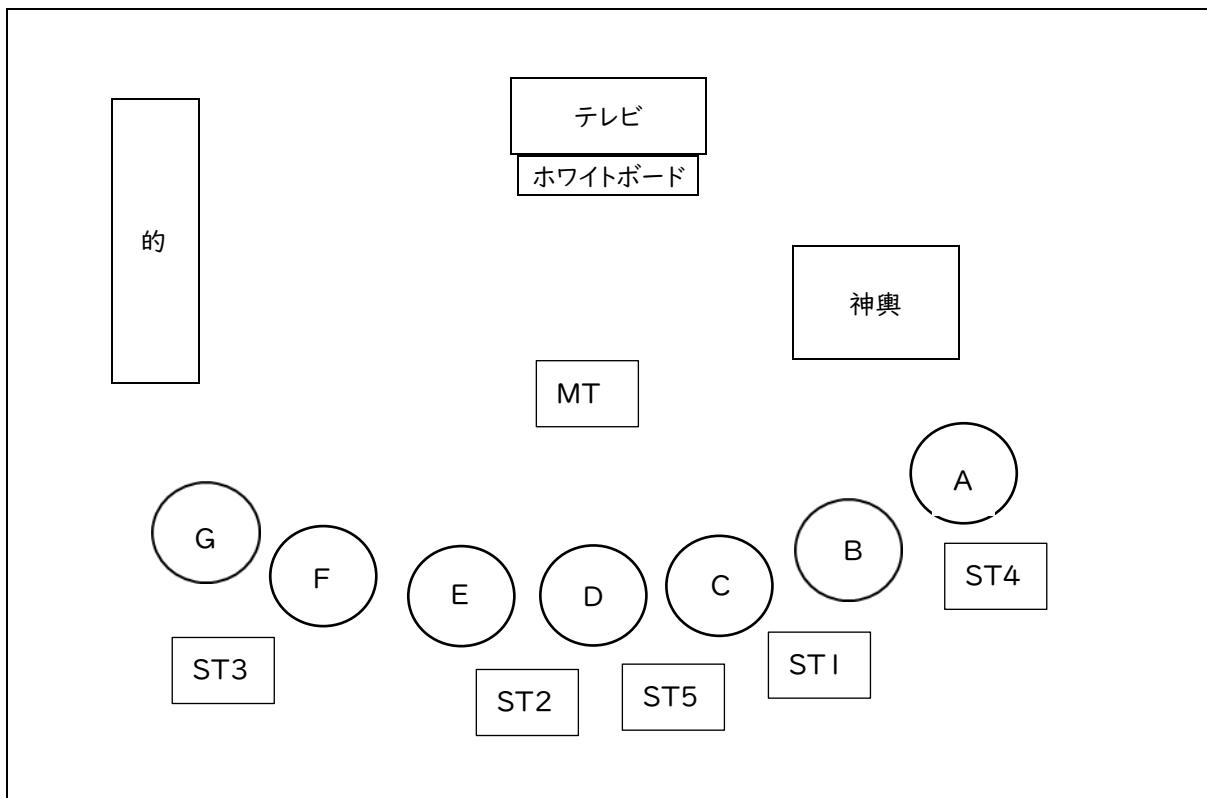
本時の展開

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点および配慮事項 | 備考 |
|--------------|---|---|----|
| 10:45 導入 | ○始めのあいさつ ○今日やることを知る ・前回の授業を振り返る ・神輿を引っ張って練り歩きをする ・的当てをする ・本時のめあてを知る 「友だちや先生と協力して、祭りや縁日を楽しもう。」 | ・日直に始まりのあいさつをすることを伝える。 ・見通しが持てるように、ホワイトボードの掲示や制作したものを見ながら活動内容を伝える。 ・本時のめあてを伝える。 「友だちや先生と協力して、祭りや縁日を楽しもう。」 | |
| 10:55 展開 | ○神輿を引っ張って練り歩く ・神輿を引っ張って B 棟玄関まで行く ・交代して練り歩く ○的当てをする ・順番に的当てを行う ・的に当てて景品をもらう | ・「ワッショイ」の掛け声をかけて練り歩きをする。 ・STは、担当の生徒と一緒に練り歩きをする。 ・MTは、掛け声に合わせて楽器を鳴らす。 ・STは、活動の様子をiPadで撮影する ・的当ての装置がずれないように固定する。 ・段ボール等で、的の高さを調整する。 ・的に当たったら拍手して称賛する。 ・MTは、鐘を鳴らして当たったことを伝える。 ・的に当てた生徒には景品を渡し、達成感や楽しい雰囲気が感じられるようにする。 ・STは、活動の様子をiPadで撮影したり、的を準備したりする。 | |
| 11:20 まとめ | ○振り返りをする | ・テレビに注目できるように座席等の配置をする。 ・一人ずつ感想を聞く。 ・めあてが達成できたか聞く。 ・発表が終わったら、拍手をして称賛する。 | |
| 11:25 | ○終わりのあいさつ | ・希望者を募って終わりのあいさつをする。 | |

本時の評価（評価規準）

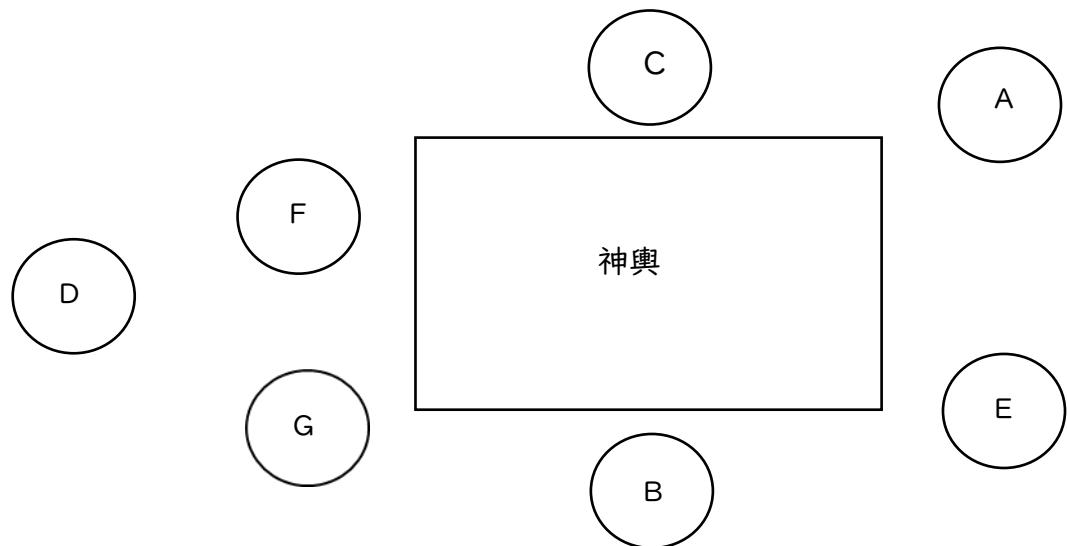
- ・様々な人々と共に協力し助け合うことの大切さに気付いて活動している。（知・技）
- ・余暇の有効な過ごし方について理解し、活動を楽しんでいる。（思・判・表）
- ・様々な人々との関わりを通して、自分が協力できそうなことを考え、活動に参加している。（学・人）

配置図・教材教具



B 棟玄関

教室



研究用補助シートの活用について

授業づくりでは、研究用補助シートを活用して、生徒の個別教育計画の目標の一覧表をつくった。一覧にすることで、生徒たちの共通の目標等を複数見つけることができた。対象の生徒たちは、手を使う活動や他者とのやりとり等コミュニケーション面を目標にしていることがわかった。

補助シートを使い、生徒一人ひとりの目標を抜き出すことで教育的ニーズを把握しながら活動内容を考えることができ有用であった。

授業について

生徒たちは、卒業後、地域社会の一員として生活する。各地域には、祭りや縁日などの伝統行事を催すところも多い。本単元では、各地域の伝統行事を通して、地域社会で生活していく生徒たちの社会参加を考えて単元を設定した。祭りや縁日が季節に関わりがあることを知り、神輿づくり等を通して、地域の人々との協力が大切であることに気付くができる。さらに、神輿を担いで練り歩いたり射的を楽しんだりすることで、余暇の有効な過ごし方について考えたり表現したりすることができると考え授業づくりを行った。

研究授業では、神輿の練り歩きや射的を行った。生徒たちは笑顔になり楽しく活動ができ、余暇活動を楽しむことができるという目標については達成できた。一方、他者と協力し助け合うことや自分ができそうなことを考えて活動に参加するなどの主体的な社会参加については、神輿づくりや射的の的づくりで、他者と協力し合って活動できたが、射的では、ホスト(客をもてなす役)とゲスト(来客)を交代で分担することを計画したが実現しなかった。生徒にとってわかりやすさを大切にしながらSTとの連携を含めて、より丁寧に授業づくりをしていかなければならないと感じた。これらの視点を今後の授業づくりに活かしていきたい。

知的障害教育部門 高等部 大井分教室

知的障害教育部門 高等部 大井分教室

| 知的障害教育部門 高等部 1学年 家庭科学習指導案(単元指導計画) | | | |
|-----------------------------------|--|------|--------------|
| 授業名 | 家庭科 | 教科等 | 家庭 |
| 対象 | 高等部 A 部門 1学年 15名 | 指導者 | M T:望月 ST:天野 |
| 単元名 | 私たちの消費生活 ~ 消費者としての自覚・計画的な金銭管理を身につけよう ~ | | |
| 研究授業日 | 令和7年 1月 22日(水) | 指導期間 | 1月~2月 |
| 時間 | 10:15 ~ 11:05 | 場所 | 分教室1階 1年教室 |
| 研究協議 | | | |
| 時間 | 令和7年1月23日(木) 15:30 ~ 16:00 | 場所 | 分教室1階 多目的室 |

単元設定の理由

| | | | | | | |
|--|--|--------------------|-----------------|--|--------------------------|---------------------------------------|
| 生徒観 | <p>【本学年の構成と特徴】</p> <p>本学年は、男子8名、女子7名の計15名で構成されており、分教室に入学する前は、それぞれ居住地域の中学校に通っていた生徒たちである。今回取り組む、「消費生活」というキーワードの単元については、これまでの家庭科で取り扱ったことはなく、今が初めてとなる。本学年の生徒たちは、普段から電車に乗りたり、店で買い物をしたり、カラオケやゲームセンターといった娯楽施設を利用したりする等、自分で欲しいものを手に入れたりサービスを活用したりするなど、消費行動を日常的に行っている。ただしその消費行動は、自分のためのものとして考えており、社会の一員として、消費者の一人としての意識はあまりないと考えられる。ほとんどの生徒がアルバイトをしておらず、今まで自分でお金を稼ぐという経験をしたことがない。</p> <p>今回の単元では、様々な商品やサービスを購入し、使用するという流れには、どんな物事にもお金がかかるということ、あらゆる方法でお金を払い、商品やサービスを手に入れ生活をする、それが消費生活であると理解させたい。そして2年後、社会に出るという見通しをもち、卒業までに計画的な金銭の管理ができるようになることを期待している。自分自身が行っている毎日の消費行動に関心をもち、①消費者としての自覚をもつこと、②商品の適切な選択や購入を行うことができるようになると、③実生活に活かせる正しい消費行動を具体的に考え身につけること、を身につけさせたい。</p> | | | | | |
| 単元観 | <p>本単元では、以下の家庭科の目標に基づいて設定している。</p> <p>●特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(下)(高等部)(平成31年2月)</p> <table border="1"> <tr> <td>家庭科 1段階(C 消費生活・環境)</td> </tr> <tr> <td>【ア】 消費生活</td> </tr> <tr> <td>消費生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</td> </tr> <tr> <td>(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。</td> </tr> <tr> <td>⑦購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性に気付くこと。</td> </tr> </table> | 家庭科 1段階(C 消費生活・環境) | 【ア】 消費生活 | 消費生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 | ⑦購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性に気付くこと。 |
| 家庭科 1段階(C 消費生活・環境) | | | | | | |
| 【ア】 消費生活 | | | | | | |
| 消費生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | | | | | | |
| (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 | | | | | | |
| ⑦購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性に気付くこと。 | | | | | | |

| | |
|-----|--|
| | <p>①売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理ができること。</p> <p>(イ) 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、表現すること</p> <p>【イ】 消費者の基本的な権利と責任</p> <p>消費者の基本的な権利と責任に関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について気付くこと。</p> |
| 指導観 | <p>今回の単元では、自分自身の消費生活に関心をもち、毎日の生活に必要な物資・サービスを適切なやり方で選んだり、購入・活用したりすることができるよう学びを深めることをねらいとしている。まずは自分の生活を振り返り、具体的にどんな物資やサービスを日々取り入れているのか、それはどのような方法で売買されているものか、自分にとってどの程度必要なものであるか等、自身の生活に置き換えて考えることで、主体的な学びにつなげたい。そして、自分で考えて書いたり、発言したりするという行動に課題がある本学年の生徒たちに、対話的な学びを促し、グループ活動を通してお互いの意見や気付いた点等を聞くことで、これから消費生活にどのように活かしていくか具体的に考え、望ましい消費行動をとることができるように、この単元を設定した。</p> <p>○本授業は、「はじめの挨拶」「今日やること」「問い合わせ」「ワークシート」「発表・共有」「おわりの挨拶」の流れで取り組む。「今日やること」の話の中で、本時の「問い合わせ」のキーワードとなる話題を提供し、活動の流れを理解してから、ワークシートに入ることで、見通しをもって活動に取り組んでほしいと考えている。全体への口頭指示のみで理解し取り組んでほしい生徒がいる一方で、それだけでは問い合わせの意味を正しく理解することが難しかったり、次にやることが分からなかったりする生徒もいるため、全体指示をした後、机間指導を行い個別の言葉かけや板書、プリントへの書き込み等を行う。</p> <p>○集団活動を行うにあたっては、自発的に前に出て発表をしたり、教員に質問をしたりすることが難しい生徒が多いため、少人数のグループを作るようとする。友達が取り組む様子を見ることで動けたり、生徒同士で解決できる部分は、お互いに声を掛け合って解決できるようにしたりする等効果があると思われる。グループ分けには、個々の実態を考え編成することが大切である。</p> <p>○これまでの学習では、教員が説明をしながらプリントの穴埋めをしたり、質問に対して答えを書いていたりする学習にも取り組んできたが、なかなか枠を埋めることができず、聞き取りも不十分な部分があった。PowerPoint のスライドを見て答えを書くことにおいても、どの部分が答えなのか説明が必要であったり、板書されたワードや文章をとりあえず書き写したりする等、どのくらい理解できているかを判断することが難しかった。これらについては、プリントの記入する場所を「○○と書きましょう。」と具体的に伝えながら進めたり、説明の中で大切な部分は強調して伝えたりする等、プリント学習の基本的な学び方も合わせて学ばせたい。</p> <p>○本単元では、自分の生活、行動を思い返し、具体的に向き合い、生徒たち自身が多く消費行動に気付くことができるようと考えている。</p> |

単元の目標（三つの柱が実現できるように）

| 三つの柱 | 単元の目標 |
|--------------|--|
| 知識及び技能 | ・毎日の生活の中で交わされる様々な消費行動について知り、適切に商品を選んだり、お金を使ったりする方法が理解できる。 |
| 思考力・判断力・表現力等 | ・自分自身の消費行動について考えることを通して、消費者の1人であるという自覚をもつことができる。 |
| 学びに向かう力・人間性等 | ・消費行動や、消費者トラブル等についてのグループワークの中で、自分なりの考えをもちそれを伝えたり、友達の意見を聞いたりすることができる。 |

単元の指導計画（第1時／全3時間）

| 次／時間目 | 学習内容 | 学習活動 | 育成を目指す資質・能力 (その時間の目標) |
|-------|----------------------------|--|---|
| 1(本時) | 消費者としての自覚 計画的な金銭の管理 | グループワーク ワークシート 自分の消費行動について思い返し、考えたことを記入する。 | ・自分の消費生活を振り返り、どんな消費行動をしているか気付くことができる。 ・自分の生活とお金の関わりについて理解し、適切に管理をする必要があることが分かる。 |
| 2 | 購入方法と支払い方法 消費者トラブルとその対策 | グループワーク ワークシート 最近の自分が行った買い物について振り返り、支払い方法の良い点、悪い点をいくつか思い出してまとめる。 | ・いろいろな購入方法や支払い方法があることが分かり、それぞれの特徴を考えることができる。 ・売買契約においてのトラブルを、事例をもとに考え、対策について理解できる。 |
| 3 | 消費者としてできること ～権利と責任～ | グループワーク ワークシート 消費者の権利と責任がある場面を取り上げ、自分にできることを考えて記入する。 | ・消費者として自分にある権利や責任について理解し、どのような場面でどんな権利や責任があるか、見つけることができる。 |

本時の目標（集団）

- ・消費生活のあらゆる場面で行われる「契約」について理解できる。(知・技)
- ・自分自身の生活の中で、どんな消費行動・契約を行っているか、考えることができる。(思・判・表)
- ・グループでの意見交換の場において、自分の意見を伝えることができる。(学・人)

個別の実態・本時の個別目標・指導の手立て・評価規準

| 生徒 | 実態 | 個別の目標 | 指導の手立て | 評価規準 (評価の観点) | 達成状況 |
|----|---|--|--|---|------|
| A | ・授業への意欲は高い。プリントに書かれた問い合わせの意味を理解し、考えて書くことが難しい。 | ・教員とのやりとりを通してやることが分かり、ワークシートに取り組むことができる。 | ・全体での説明が終了したら、次にやることを教員と一緒に確認し、その後自分で進められるようにする。 | ・教員とのやりとりの後、ワークシートで聞かれていた問い合わせについて、自分で書き進めることができたか。 | |
| B | ・プリントへの記入や板書の書き写しはできるが、書くことに重点を置いており、内容の理解に課題がある。 | ・本時での問い合わせについて、教員から質問されたことに、ワークシートを頼りに答えることができる。 | ・本人のワークシートを見ながら、書き写したことや、記入した自分の意見について教員と対話する時間を設ける。 | ・問い合わせについて、教員から答えを求められたとき、自分が書いたワークシートを見ながら、答えることができたか。 | |

| | | | | | |
|---|--|---|--|--|--|
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で伝えたり、集団の中で発言したりする部分に課題があるが、個別で話をすると伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小グループでの話し合いのとき、自分の意見を言うことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの際、今何について話すのか、意見交換をするときなのか、具体的に示し、発言できる機会を設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小グループでの意見交換の場で、本時の展開での問い合わせ(2)について、友達に伝えることができたか。 | |
|---|--|---|--|--|--|

本時の展開

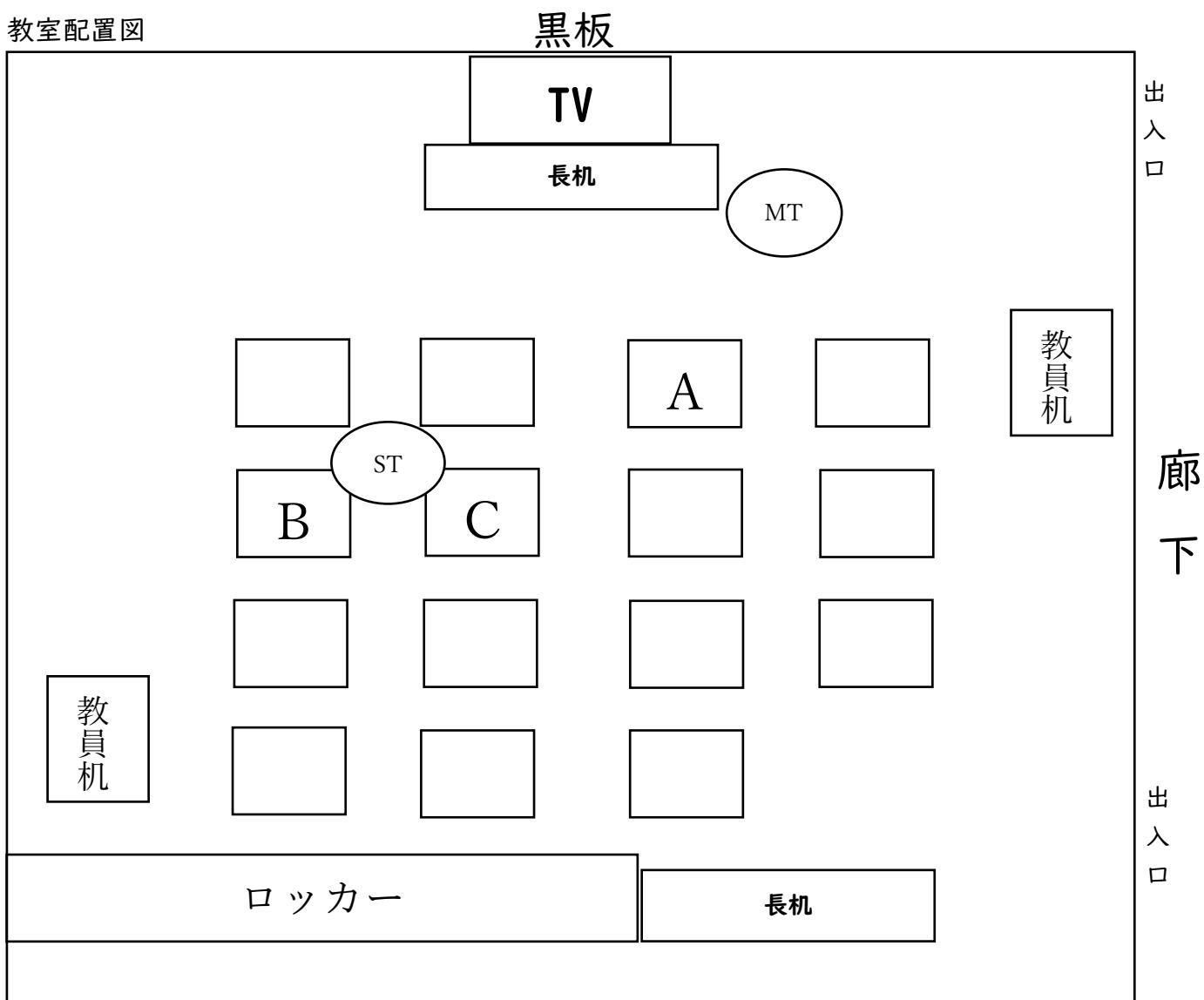
| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点および配慮事項 | 備考 |
|-------|--|---|----|
| 10:15 | <ul style="list-style-type: none"> ○はじめの挨拶(日直) ○今日のはなし(流れの説明) <ul style="list-style-type: none"> * 今日からの学習について * キーワード「売買契約」「消費生活」 * 「問い合わせ」 グループ活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループ内で共有 * 発表 | <ul style="list-style-type: none"> ・開始時間が来たら着席する。 ・「先生今日何やりますか?」と、授業前に聞かれることが多いため、その日の活動の流れを確認することで、見通しをもって学習に向かうことができるようとする。 ・PowerPointによる視覚支援を活用し、必要に応じて生徒それそれが確認をしたり、大事な部分を説明しやすいようにしたりする。 ・実際、どのようにして、売買契約が成立するか、生徒に前に出もらい、やり取りをしながら考える。 | |
| 10:20 | <ul style="list-style-type: none"> ○問い合わせ【考える】 <ul style="list-style-type: none"> 自分の生活の中でどのようなことにお金を使っていますか? (1)みんなが生活するうえで必要な商品って? 「物資(形があるもの)」「サービス(形のないもの)」 (2)今日、学校に来るまでに利用したもの思い出しましょ。 | <p>⇒いろいろな契約について、具体例を出して、イメージがもてるようとする。 (例) お店で服を買う、電車やバスに乗る、美容院・理容院で髪を切る、通販サイトで商品を買う、電話でピザを頼む…。あなたが結んだ契約は、何ですか?</p> <p>★ 本時の大好きな問い合わせを提示し、聞かれていることが分かるか確認する。教員側から具体例を出したり、生徒たちに質問したりしながら、進める。</p> <p>⇒ 「物資」と「サービス」の例を複数個挙げ、どちらに含まれるか考える。(板書で分類して示す)全員が答える機会を設ける。</p> <p>⇒ ワークシートを配り、全体指示を出した後、机間指導を行う中で、進んでいない生徒に対しては、個別に支援を行う。</p> | |
| 10:40 | <ul style="list-style-type: none"> ○ワークシート/共有 【書く】【話す・聞く】 <ul style="list-style-type: none"> ・「問い合わせ」で考えたことをワークシートに書く。 ・自分の言葉でグループの友達に伝える準備をする。 | <p>⇒ 「問い合わせ」の意味理解が難しい場合、「朝、起きてからまず、何をしたかな?何を使ったかな?」「学校までは、どうやって来た?」等、具体的な伝え方に変える。</p> | |

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 10:55 | ○発表/まとめ【話す・聞く】 → (2)についての共有 ・自分の消費活動について友達に伝えたり、グループの友達の意見を聞いたりする。 | ★ 事前に、「記録者」「発表者」を決めておく ⇒ 個々から出た意見や答えを、グループの意見としてまとめ、発表できるようにする。個別に配るプリントとは別に、用紙を準備する。 | |
| 11:05 | ○おわりの挨拶(日直) | 次回は、今日学習したことを元に ・商品の購入方法とお金の支払い方法 ・消費者トラブルとの対策 について、学習することを伝えて終了する。 | |

本時の評価(評価規準)

- 具体的例として出されるいくつかの物事において、何が「契約」に当たるのか答えている。(知・技)
- 自分の生活の中でどんなことにお金を使っているか、その消費行動についてワークシートに書いている。
(思・判・表)
- ワークシートに書いた内容をグループワークで発言したり、誰かの意見に同意したりしている。(学・人)

教室配置図



反省

○授業者より

- ・普段通りの雰囲気で授業が進んだ。いつも通りの感じだった。とはいえた生徒たちは、普段よりもプリントへの記入量が多くたったように感じた。緊張感をもって取り組んでいたように思う。全体指示が入りづらい生徒は、個別で何度か対応を入れながら進めた。

○参観者より

- ・生徒と最初のやり取り(売買契約の、パン屋さんのくだり)をしたことで盛り上がったし、分かりやすかった。
- ・物資とサービスのことでもう少し詳しく説明することができるとよいと思った。違いの理解が難しい。
- ・モノが残るかどうかで説明するとよいのでは?「バスとかはモノとして手に入らないよね…」
- ・一部の生徒が中心で授業が展開されているが、他の人にも聞いて、発言の機会が回ってくるとよいのかなと思った。授業の回数が3回になっているが、アコム(借金)等の金融機関の危険性とかも扱えるとよいのかなと思う。
- ・スライドが分かりやすい。説明も分かりやすいので聞くのが得意、見るのが得意な生徒両方に対応できてよい。後ろの子にも見えているか確認するのが親切。・逆に、前列 M,K さんあたりが話を聞いているか怪しいので気に掛けるよかったです。
- ・ICT の使用で分かりやすいことやワークシートが親切。一斉に投げかけてどのくらいできるのかを見るのも良いのでは。あえてはじめはサポートなしでやってみるのもたまにやるとよいのではないか。
- ・ぼそっと答えを言っていた生徒がいたが、間違えていて、フォローが必要な場面があった。
- ・書きやすいワークシートから始めることができたので、生徒もやりやすかったのではないか。答えるのが好きな生徒が答えている半面、他の一人の生徒は先に答えられてしまうと一步引いている。
- ・一人一人答えられるようにできるとよい。日頃の連絡帳の振り返りから細かく聞いていくとよいのではないかと思う。連絡帳、もう少し大人が頑張って取り組ませるようにするとよいと思う。毎日丁寧に書けるとよい。
- ・プリント学習の目的は十分に達成できていた。本時の目標に関しても達成できていると思う。
- ・個々の実態に載っている生徒を中心に気にかけていることも分かる。考える・書く、のバランスは今後考えていく。
- ・「自分で気付かせるにはどうしたらよいか」の意見については、適度なヒントを与えるのが大事。ヒントを与えすぎると写すだけになるのでダメ。友達の意見を聞くのも良いかも。教員がやってしまいがちな時間がなくなったとき、分かる人に聞いてしまうと、ゆっくり考える人が考えられないで、考える時間はしっかりとれるようにする。分教室の生徒でも生活設計を一人でするのは難しい。保護者等の力は必要になる。難しい話にはなるので、来年度以降にも、1年次には「ここまでやりました」を引き継げるようとする。
- ・金融機関やクレカの話などは、普通の高校生のレベルなので、ゆっくりとやっていかなければならぬ单元だと思う。3年で少しづつ進めるようにする。
- ・授業の内容の中で、「契約が成立するのはどこか?」という話はあったが、今後あまり生かされる内容ではないと思うので、教える内容を絞った方が良いのではないかと思う。

○研究用補助シートの活用について

- ・研究日の日などを活用して、各教科で取り組める個別の目標を探す作業を行った。この作業を行うことで、今回の研究授業では本時の個別目標や指導の手立てを設定しやすかったように感じる。今後は、研究授業だけでなく、通常の授業時でも活用しやすくする方法があると良いと思った。

湯河原校舎 知的障害教育部門・肢体不自由教育部門 小学部・中学部・高等部

湯河原校舎

授業者 倉持 孝

| 小・中学部A・B 高等部B 音楽 学習指導案(単元指導計画) | | | |
|--------------------------------|-----------------------------|------|-------------------------|
| 授業名 | 音楽 | 教科等 | 音楽 |
| 対象 | 小・中学部 A・B、高等部 B | 指導者 | MT 倉持 ST 徳田、石井、中田、赤間、板垣 |
| 単元名 | 音楽に合わせて友達と一緒に手や体を動かすことを楽しもう | | |
| 授業日 | 令和 6年 6月21日(金) | 指導期間 | 6月～ 7月 |
| 時間 | 10:40 ~ 11:20 | 場所 | 自立活動室 |

単元設定の理由

| | |
|---------|--|
| 児童観・生徒観 | <p>湯河原校舎では通常の授業を主に部門や学部ごとに実施してきたが、日常の場面や特別活動、集会活動では部門や学部を超えて行うことで有意義な交流ができていた。その経験を踏まえて、今年度より音楽と運動・集会の授業において、A 部門小中及び B 部門小中高合同で行う授業を設定するようにした。児童生徒の人数構成は小 A1年3年5年、中 A3年、小 B4年、中 B3年、高 B1年各1名ずつとばらばらである。児童生徒の実態も、視線や表情で表現をする生徒や言葉による会話で意思疎通ができる児童、人工呼吸器を使用している生徒などまちまちである。また昨年度までは AB 部門別々で音楽の授業をもっていたので、学習してきたこともそれぞれで違う。</p> <p>その中で、4～5月はピアノやベルハーモニーを児童生徒の実態に合わせて使用し、音階の違いを感じたり演奏したりする活動を行った。そして個々での活動に関してはそれぞれの実態に応じて行えてきている。そこで各々の個別教育計画の目標に基づき、また部門を越えた授業の特徴を活かして友達との関わりを意識することを学習活動の目標に含めることにした。</p> |
| 単元観 | <p>本単元ではまず手遊びとダンスを行い、動画や教員の手本を見ながら音楽に合わせて模倣し体を動かすことをねらいとした。手遊びでは「さかながはねて」の絵本をテレビで見た上で動画や教員の手本を見ながら行い、ダンスでは動画を見ながら「アブラハムの子」を行った。</p> <p>器楽ではタンバリンを用いて「歩いて帰ろう」の曲に合わせて叩く活動をした。二人一組で一人がタンバリンを持ち、もう一人が叩くようにして、タンバリンの振動を感じたり友達を意識したりすることを促した。</p> <p>鑑賞では落ち着いた状態で「三線の花」の曲の動画を見て、同時に教員が演奏するカンカラ三線を聴き、曲を味わうようにした。</p> <p>本単元は特別支援学校小学部学習指導要領音楽の①目標 (3) 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しみる態度を養い、豊かな情操を培う。 及び、①段階(2)内容 A 表現ア(ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。 ⑦音や音楽を感じて体を動かす技能 ⑧音や音楽を感じて楽器の音を出す技能</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>⑦音や音楽を感じて声を出す技能に基づいて目標設定している。</p> |
| 指導観 | <p>手遊びでは絵本をパワーポイントにしてテレビで映すことにより、児童生徒がより主体的に注目しやすいようにした。またゆっくりなバージョンと速いバージョンの手遊びを行うことで、児童生徒の実態に応じて楽しみやすいようにした。ダンスでは体の各部分を呼名して動かすような曲にして、より模倣しやすいためにした。</p> <p>タンバリンでは対話的な観点から、二人一組で持ち手と叩き手が曲の途中で交代するようにして、より友達を意識しやすいためにした。</p> <p>鑑賞ではカンカラ三線の演奏を目の前で聴いたり楽器に触って振動を感じたりするなど、その曲と演奏をより深く学び味わえるようにした。</p> |

単元の目標

| 三つの柱 | 単元の目標 |
|--------------|---|
| 知識及び技能 | 動画などを見ながら簡単な手遊びやダンスをすることができる。 |
| 思考力・判断力・表現力等 | 曲のタイミングに合わせてタンバリンを鳴らすことができる。 |
| 学びに向かう力・人間性等 | 友達との関わりを意識しながら活動したり、落ち着いて曲や楽器の演奏を味わったりすることができる。 |

単元の指導計画(第3時／全5時間)

| 次／時間目 | 学習内容・活動 | 育成を目指す資質・能力 (その時間の目標) | 備考 |
|--------------|---|--|----|
| 1時間目 | | | |
| 2時間目 | 始まりの歌(パーランク) | ・活動の説明を聞いたり手本を見たりして、新しい活動に親しむ。 | |
| 3時間目 (本時) | 手遊び 「さかながはねて」 ダンス 「アブラハムの子」 器楽 「歩いて帰ろう」(タンバリン) 鑑賞 「三線の花」(カンカラ三線) | ・手遊びやダンスを模倣する。 ・友達と一緒にタンバリンを演奏する。 ・落ち着いて音楽を鑑賞する。 | |
| 4時間目 | | ・タンバリンのペアを決めるなど、主体的に活動する。 | |
| 5時間目 | | | |

本時の目標(集団)

曲のタイミングに合わせて、友達との関わりを意識しながらタンバリンを鳴らすことができる。

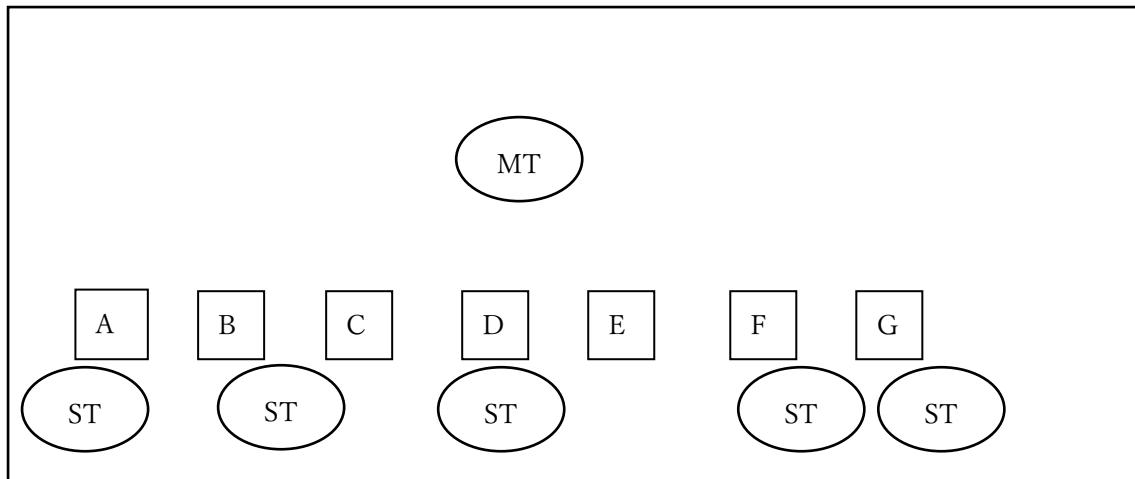
個別の実態・本時の個別目標・指導の手立て・評価規準

| 児童生徒 | 実態 | 個別の目標 | 指導の手立て | 評価規準(評価の観点) | 達成状況 |
|------|--|-----------------------------|---------------------------------|------------------------------------|------|
| A | 特定の友達を意識して言葉をかけて関わることができる。 | 友達と一緒にタンバリンを持ったり叩いたりする。 | 一緒にできる友達がペアになるように促す。 | 友達と一緒にタンバリンを持ったり叩いたりすることができたか。 | |
| E | ほとんどの友達と協働して活動を行うことができる。 | 友達をリードしながらタンバリンを持ったり叩いたりする。 | 本人の意思を尊重しつつ、友達との協働作業ができるように促す。 | 友達をリードしながらタンバリンを持ったり叩いたりすることができたか。 | |
| D | 特定の友達を意識して言葉をかけて関わることができる。 | 友達と一緒にタンバリンを持ったり叩いたりする。 | 一緒にできる友達がペアになるように促す。 | 友達と一緒にタンバリンを持ったり叩いたりすることができたか。 | |
| F | 興味のある物に注目したり、人の声のある方に視線を向けたりすることができます。 | MT や楽器に気付き注視することができる。 | 本人の表出を充分に待ち、本人の反応を受け止めたことを伝える。。 | MT や楽器に気付き注視することができたか。 | |

本時の展開

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点および配慮事項 | 備考 |
|-------|---|--|--------------------------------------|
| 10:40 | 1. 始まりの挨拶 ・本日の予定を知る。 2. 始まりの歌 名前を呼ばれたら、歌のタイミングに合わせてパーランクを叩く。 | ・授業の始まりを意識させる。 ・手順表を使って説明する。 ・ギターで伴奏をする。 ・呼名時にパーランクを差し出す。 ・ばちは先に渡しておく。 | 手順表 ギター パーランク ばち 歌詞表 |
| 10:45 | 3. 手遊び 「さかながはねて」 ・動画を見ながら行う。 | ・パワーポイントにした絵本を読み聞かせる。 ・ギターで伴奏をしながら手遊びをやって見せる。 ・ゆっくりと速いバージョンをする。 | テレビ iPad |
| 10:50 | 4. ダンス 「アブラハムの子」 ・動画を見ながら行う。 | ・立てる人は立って行うように促す。 | |
| 11:00 | 5. 器楽 「歩いて帰ろう」 ・二人一組で曲に合わせてタンバリンを鳴らす。 | ・二人ずつ前に出るようにする ・タンバリンを一人が持ち、もう一人が叩くように促す。 ・歌の途中で持ち手と叩き手を交代させる。 | タンバリン |
| 11:10 | 6. 鑑賞 「三線の花」 ・動画を見ながら三線演奏を鑑賞する。 | ・動画に合わせてカンカラ三線を弾く。 | 三線 |
| 11:20 | 7. 終わりの挨拶 | ・授業の終わりを意識させる。 | |

配置図



授業への個別教育計画の反映について

今年度の小中 AB 高 B では、学年や実態・これまでの経験もまちまちである中で、2教科で合同授業を行った。個別教育計画からは主に社会性に関する項目から、以下のような共通に取り組める点を取り上げて、それを盛り込んだ授業計画を立てて取り組んだ。

小 A1(社会性)

- ・所属する集団の中で、安定して活動できるようになる。

小 A3(社会性)

- ・集団生活の中でルールや順番、マナーを守ることができる。

小 A5(社会性)

- ・集団生活の中でルールや順番を守ることができる。

中 A3(楽しむ)

- ・友達との関わりを多くし、一緒に過ごすことや、やり取りを楽しむ。

小 B4(社会性・コミュニケーション)

- ・簡単なルールや順番を理解し、友達と一緒に活動することができる。

中 B3(社会性・コミュニケーション)

- ・教員からの働きかけを受け、表情を変えたり視線を動かしたりすることができる。

高 B1(社会性・コミュニケーション)

- ・A 部門との交流授業（音楽、運動、サークル、作業、地域共同学習）に参加し、いろいろな人と関わりを広げる。

部門も学年も実態もまちまちであるので、技能などの面では統一した授業計画を立てにくかった。しかし社会性や人間性に関する面では類似した目標があったので、その点に関しては授業計画を考えやすかった。また今回改定された個別指導計画の書式は、部門が違っても統一されている面があるので利用しやすかった。

この目標に関しては、実際に児童生徒間で友達を手伝ったり助け合ったりする様子が見られ、様々な友達や教員との関りを意識して集団で活動することができるようになってきた。

おわりに

令和5年度、「伸びる！個別教育計画」をテーマとして、指導に直結する個別教育計画の書式を検討し、全校統一した書式を完成することができ、令和6年度は新書式での実践に取り組むこととしました。

さて、今年度は前年度の校内研究を引継ぎ、新書式を用いて設定した「個別教育計画の目標をどのように授業に落とし込むか」を検討することをテーマとして研究に取り組んできました。

今回の研究のキーワードのひとつとして「授業改善」があります。その「授業改善」についてですが、特別支援学校においては、障害のある児童生徒が自己の持つ能力や可能性を最大限伸ばし、『生きる力』をはぐくむために、障害に基づく種々の困難を改善・克服するための教育活動を展開することが重要です。この教育活動の中心となるのが授業です。そこで、特別支援学校の教員は、個々の児童生徒の実態や教育的ニーズを十分に考慮して、専門性に基づいた授業改善を進める必要があります。そのためには、特別支援学校の教員は教材・教具の工夫や開発、研究授業の実施、研究授業後の研究協議会への参加等を通して専門性を高めることが必要です。

そのような中で、今年度の本校の研究では、授業に参加する児童生徒の個別の目標を一覧化することで「どのような児童生徒であるか」を再確認し、授業の中で個別の課題のアプローチをとりやすい工夫を行いました。知的障害教育部門、肢体不自由教育部門の各小学部、中学部、高等部、大井分教室、湯河原校舎での個別教育計画に基づいて実践された授業実践の指導案を共有フォルダに掲載し、共有することで研究を進めてまいりました。研究のまとめでは、湯河原校舎での校舎全体の合同授業の実践において、「部門も学年も実態もいろいろであるが、類似した目標を取り上げ、それを盛り込んだ授業計画を作成し、授業を実践することができた。今回改定された個別指導計画の新書式は、部門が違っても統一されているので利用しやすく、実際の授業の場面においても、目標を達成することができた。」とあり、その成果を報告することができました。また、同時に様々な課題もあり、引き続き研究実践に取り組んでいく必要があります。

今年度はこのような研究の機会を本校の多くの教員が享受することができ、「日々の実践の充実」に向けて、校内研究に学校全体で取り組んでいます。これからも、より一層研究を進める中で、教員としての知識、専門性を深め、具体的な実践から、一人ひとりの児童生徒の豊かさを育むものとして取り組んでいきたいと思います。

副校長 鈴木 健一郎

研究のまとめ 第43集

発行年月 令和7年3月発行

発行者 神奈川県立小田原支援学校

小田原市蓮正寺1021

TEL 0465-37-2758